「生きづらさ」のアンケートと 子どもへの暴力防止(CAP)の活動報告

-2020 年度ドコモ市民活動団体助成事業-



認定 NPO 法人水戸こどもの劇場 CAP いばらき

謝辞

第一章 生きづらさのアンケート

- 1. 『生きづらさのアンケート』の目的
- 2. 『生きづらさのアンケート』の結果
 - 1 回答者の年齢 性別 居住形態
 - 2 人間関係について
 - 3 からだの健康
 - 4 経済面
 - 5 こころ
 - 6 同調圧力、社会規範
 - 7 自己決定と人権
 - 8 対人恐怖や過敏症
 - 9 発達障がいや苦手意識
 - 10 暴力やトラウマや生育
 - 11 その他

第二章 かけがえのない子どもたちを支えるために、私たちが出来る事と司法の関わり

- 1. 岩城正光弁護士 講演会
- 2. 講演会参加者の感想

第三章 子どもへの暴力防止プログラム『CAP』

- 1.子どもへの暴力防止プログラム『CAP』とは
- 2.CAP 大人向け公開ワークショップ参加者の感想
- 3.CAP 児童養護施設プログラム参加者の感想
- 4.自立援助ホームでの CAP プログラム参加者の感想
- 5.CAP プログラムを子どもたちに届けるために

「生きづらさ」のアンケートや子どもへの暴力防止(CAP)の活動が、ドコモ市民活動団体助成金により実施できましたこと感謝申し上げます。

「生きづらさ」のアンケートは、コロナ禍さまざまな方にアンケートのご協力を頂きました。貴重な回答やご意見を活かすべく、今後も「生きづらさ」を少しでも和らげるような活動を続けたいと思います。

また、このアンケート結果を是非、多方面でご活用ください。認定 NPO 法人水戸こどもの劇場 CAP いばらきまで一報いただけるとありがたいです。

アンケートを作るにあたりまして、さまざまな分野で活動されている方々にアドバイスをいただき、ありがとうございました。また、書籍からの引用だけでなく、現代の発言の場でもあるネットの中での専門家のご意見も関連するものを引用したり、参考にさせていただきました。

また、岩城正光弁護士には「かけがえのない子どもたちを支えるために、私たちが出来る事と司法の関わり」と題しご講演をしていただきました。コロナ禍、子どもの人権に関心の高い方々に水戸市の会場と全国の方々とオンラインで繋いで沢山ご参加頂くことができ、子どもの人権問題に直接関わられている岩城弁護士ならではの大変貴重なご講演となりました。ご講演内容と参加者の感想を掲載させていただきました。

子どもへの暴力防止の実践活動としては、子どもへの暴力防止プログラム(CAP)の大人向けワークショップを秋と春の 2 回実施でき、多くの方々に子どもへの暴力防止に広く関心を持って頂くことができました。講演会と公開ワークショップにご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。

そして、児童養護施設と自立援助ホームでの CAP ワークショップが実現しました。施設職員の方々、施設で暮らす子どもたちに届けることができました。 CAP のアンケートや感想も掲載いたしました。

それから、CAP ワークショップを実施できる CAP スペシャリスト養成講座を開催し、人材育成をする事ができました。さまざまな活動をしている沢山の方にご参加頂き、子どもの人権への深い理解が広まり、地元茨城県の多くの学校や施設で CAP が実施できる期待が高まりました。CAP の実施をご希望の学校や施設がありましたら、是非 CAP いばらきまでご相談ください。

CAP いばらきは 2000 年の発足以来、子どもへの暴力防止(CAP)の活動を続けております。この度の活動の中で多くの方々と出会い、皆様のご協力で実現できました事、感謝申し上げます。

第一章 生きづらさのアンケート

- 1. 『生きづらさのアンケート』の目的
- 2. 『生きづらさのアンケート』の結果
 - 1 回答者の年齢 性別 居住形態
 - 2 人間関係について
 - 3 からだの健康
 - 4 経済面
 - 5 こころ
 - 6 同調圧力、社会規範
 - 7 自己決定と人権
 - 8 対人恐怖や過敏症
 - 9 発達障がいや苦手意識
 - 10 暴力やトラウマや環境
 - 11 その他

第一章 「生きづらさ」のアンケート

1. 「生きづらさ」のアンケートの目的

この時代に生きる私たちはどんな問題や悩みを抱え、生きづらさを感じているのか、さまざまな観点から調査をしました。

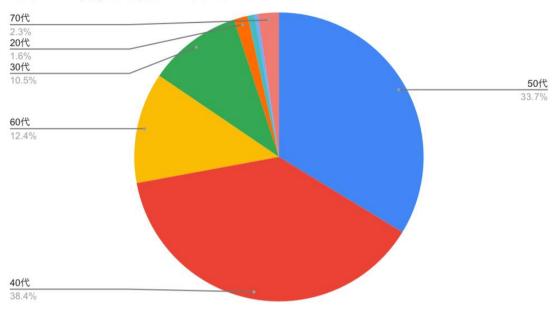
これを目にした個人や団体や地域の人が、「生きづらさ」を抱えているのは、自分だけ じゃない事、少しでも生きづらさが軽くなるヒントが見つかればと願っています。

子どもへの暴力防止の人権活動を続けている私たちですが、教育や福祉の行政にたずさわる方には、アンケート結果が具体的な施策につながれば、今の子どもたち、将来の子どもたちが生きやすい社会になるのではと、期待をこの一冊に込めました。

2.「生きづらさ」のアンケートの結果

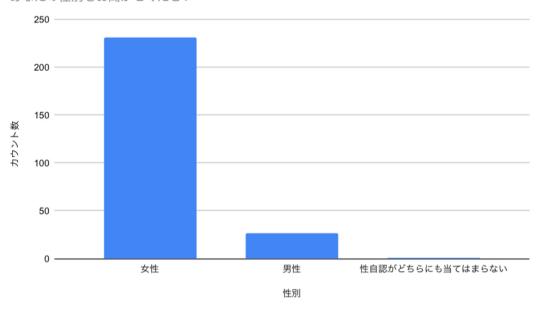
1. 回答者の年齢・性別・居住形態





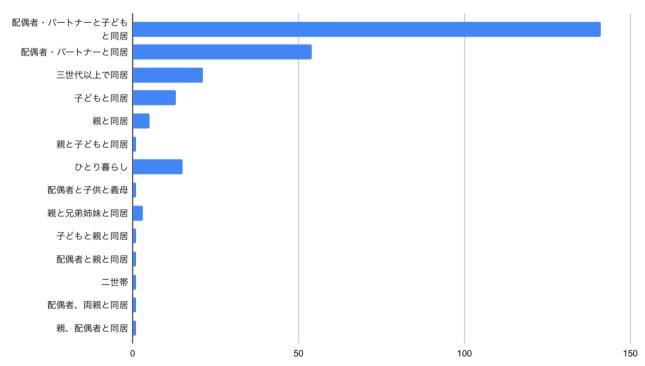
40 代、50 代が多く回答をいただきましたが、10 代も回答をいただき、10 代から 70 代までの 2 5 6 名の幅広い年齢層のアンケートとなりました。

あなたの性別をお聞かせください



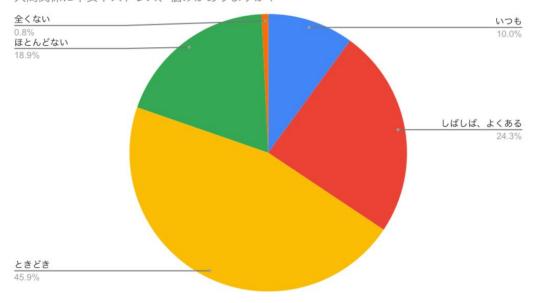
女性が圧倒的に多くなりました。講演会や CAP のワークショップ参加者、ホームページや 口コミでアンケートへのご協力をお願いしましたが、参加者や関係者に女性が多かったの が一因だと思われます。

居住形態を教えてください (該当しない場合、その他に自由記載できます)



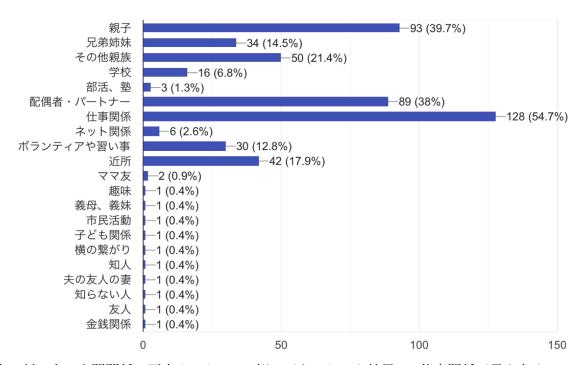
2.人間関係

人間関係に不安やストレス、悩みがありますか?



どういう人間関係にストレスや悩みがありますか?(複数選べます)

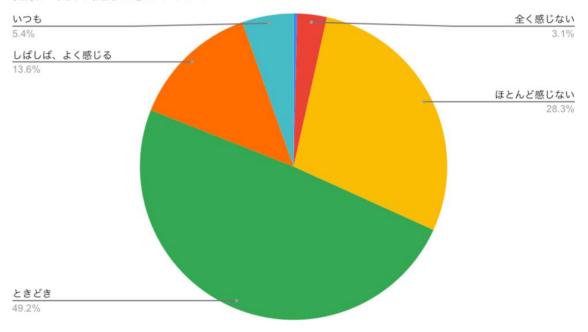
234 件の回答



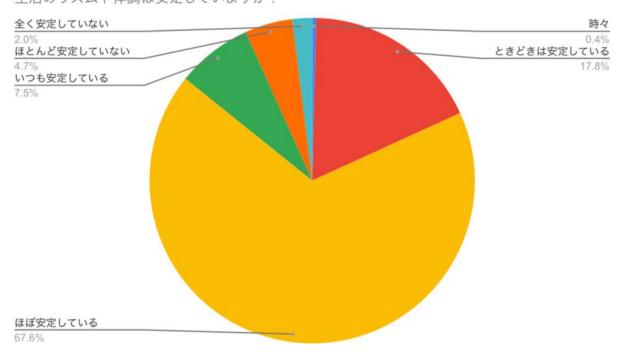
約8割の方は人間関係に不安やストレス、悩みがあるという結果で、仕事関係が最も多く、 次いで親子、配偶者パートナーでした。

3.からだの健康

健康に不安や困難を感じますか?

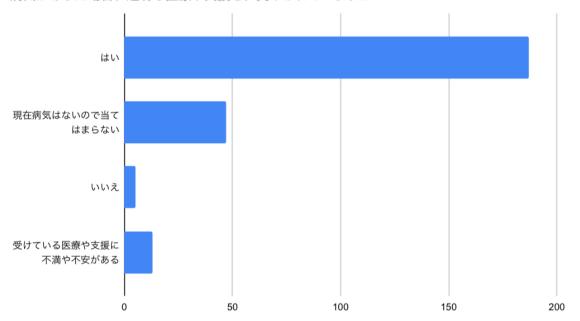


生活のリズムや体調は安定していますか?

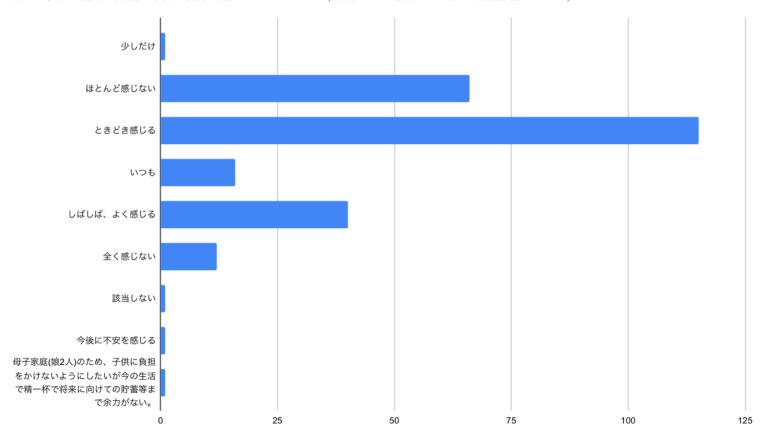


からだの健康については、約7割の方が不安や困難を感じていますが、生活のリズムや体調は時々安定を入れると、9割以上の方が安定しているとの結果でした。





自分や家族の病気や介護に不安や困難を感じていますか? (該当しない場合、その他に自由記載できます)



いつも しばしば、よく感じる ほとんど感じない ときどき 全く感じない

新型コロナなどの感染症に不安や困難を感じますか?

病気があった場合、約7割の方が適切な医療や支援を受けられているとの回答でした。 従来の医療や福祉の枠組みで解決できる問題であれば、困難や不安は伴いますが、やがて治療や支援、解決に向かうことが多いです。

75

100

125

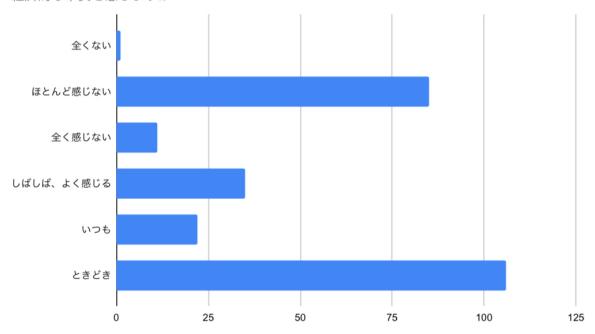
しかし、社会学者の川北稔は著書の中で「従来の医療や福祉の枠組みに乗りづらい困難が 生きづらさとして語られている」*9)と述べています。

例えば治療が難しい精神疾患や依存症やそれらを伴う介護、そして新型コロナウィルス 感染症も該当するのかもしれません。先行きが不透明で不安や社会全体が大きなストレス に包まれたり、行動制限もあることが、新型コロナウィルス感染症では多くの方が実感した ところです。このアンケートは 2020 年の 10 月から 2 か月間ほどが最も回答をいただきま した。その時点では、新型コロナウィルス感染症に対して、不安や困難を全く感じない、ほ とんど感じないと回答いただいた方は約 2 割でした。

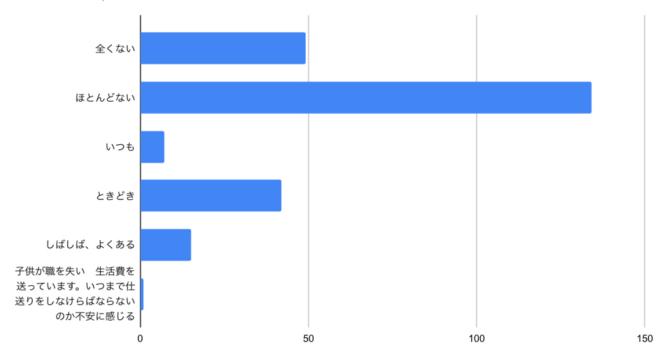
家族社会学者の山下美紀は「いろいろと治療したり支援を求めても解決しないことや、解決できない自分を責めたり、無力感や不安を感じ、生きづらさにつながっていると思われる」*5)と述べています。解決しない期間が長くなると、無力感や不安が日々増して、自分の外側に向いていた怒りや不満が、内側に向いて自分を傷つけて生きづらさにつながっていくと思われます。

4.経済面

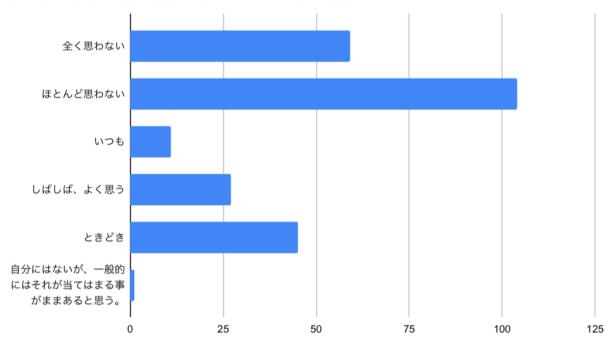
経済的な不安を感じますか



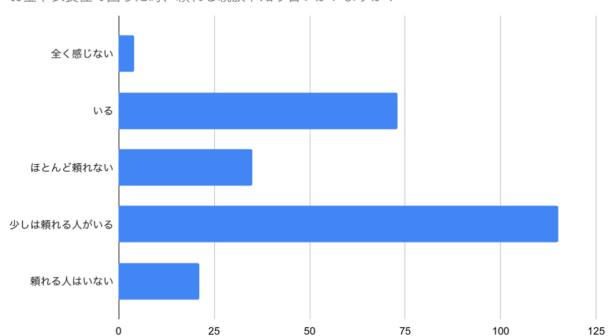
お金や衣食住のことで大変困ったり、苦しんだりすることがありますか? (該当しない場合、その他に自由記載できます)



経済的な理由で必要な教育を受けたり、自立や社会復帰ができないと思いますか?



お金や衣食住で困った時、頼れる親族や知り合いがいますか?



経済的な不安は 6 割以上の方が感じているようですが、お金や衣食住のことで大変困ったり、苦しんだりするのは 3 割弱でした。経済的な理由で必要な教育を受けたり、自立や社会復帰ができないと思われる方も約 3 割でした。お金や衣食住で困ったとき、頼れる親族や知り合いがいないと 2 割の方が回答しました。

*7)雨宮処凛・菅野稔人は著書『「生きづらさ」について:貧困、アイデンティティ、ナショナリズム』の中で、『「生きづらさ」を①人間関係の中での精神的な生きづらさを抱える=精神的な生きづらさ、②貧困から抜け出せなくて経済的に生きづらい=経済的な生きづらさ、③社会のなかで疎外感や居場所のなさを感じて生きづらい=社会的な生きづらさ』に分けています。雨宮は、『上記の3つの「生きづらさ」は互いに独立しているのではなく、複雑に絡み合っているととらえ、いまの日本社会の特徴として、人間関係を構築するための高度な気づかいを必要とし、一度でもつまずくと容易には元に戻れず、社会から排除されていく』と述べています。

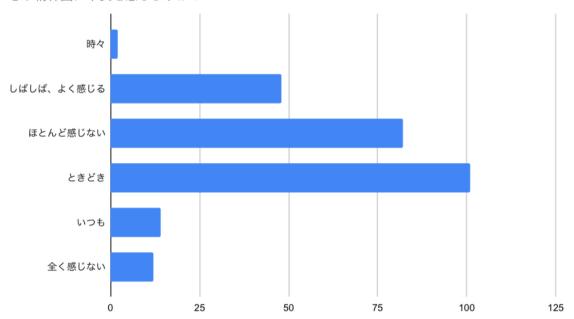
現代の若者の労働問題に言及した*8)『「ニート」って言うな!』の著書である本田は、「働いていない」ことは個人の問題である、あるいは子どもの教育は母親が責任を持たなければならないといった自己責任論が「生きづらさ」に結びついていくと主張しています。

また家族社会学者の山下美紀は「不況や社会保障制度の弱体化という社会の側の問題によって引き起こされた労働状況の悪化であるにもかかわらず、就労できないことや不安定労働や失職を個人の責任に転嫁するような社会的な仕組みも「生きづらさ」に結びついていると解釈できる」と述べています*5)

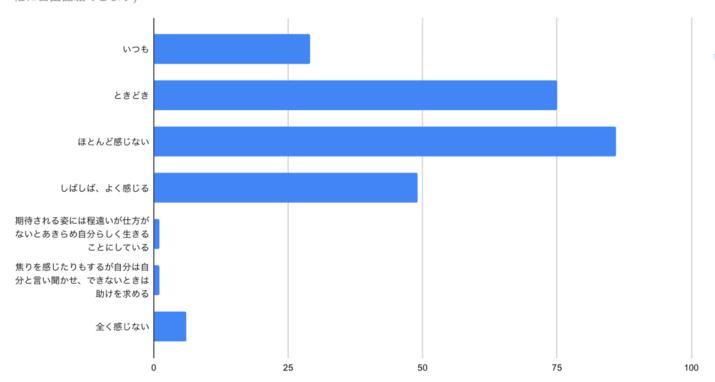
コロナ禍では、親族や知り合い等にしばらく身を寄せて支援を受けることが感染リスクにより困難で、リーマンショックの際の失業、貧困、孤独より厳しい状況を強いられています。身近な支援が困難な状況では、利用しやすい制度や孤独を和らげる居場所の提供など、NPO 法人や地元のボランティアも活用してきめ細かな支援が必要となると思われます。日頃からの行政と NPO 法人などとの連携も大切であると痛切に感じます。

5.こころ

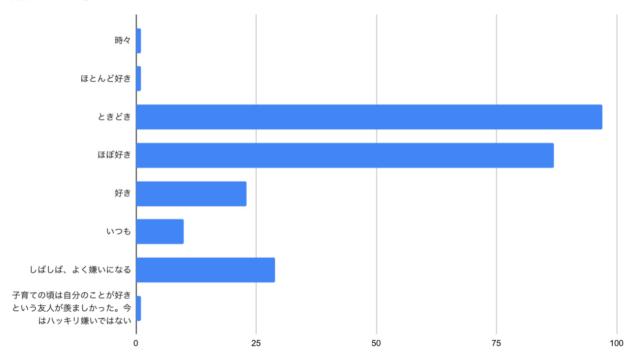
心や精神面に不安を感じますか?



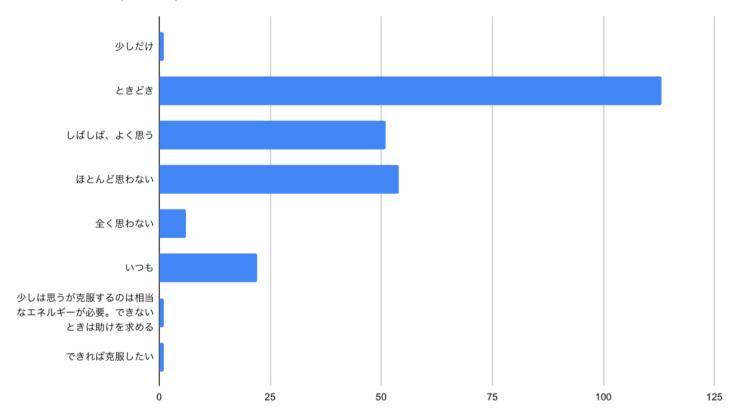
こうあるべきと思う姿や周囲から期待される姿と、今の自分には、大きな差やあせりを感じますか? (該当しない場合、その他に自由記載できます)



自分のことが嫌いですか?



苦手な部分は克服(こくふく)しないといけないと思いますか?



自己否定感や現実と理想の自分の解離が生きづらさの大きな原因のひとつとされています。

6割以上の方がこころや精神面に不安を感じていました。

こうあるべきと思う姿や周囲からきたいされる姿と、今の自分には大きな差やあせりを 感じる人は、約6割でした。

自分のことを嫌いと答えた方は約5割でした。

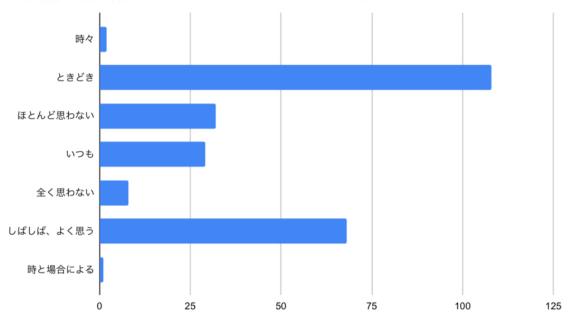
苦手なことは克服しなければと思っている方は、約75パーセントでした。

困難な境遇や、あるいは世間的には恵まれた環境に思われていても生きづらさの感じ方は個人によって大きく差があります。

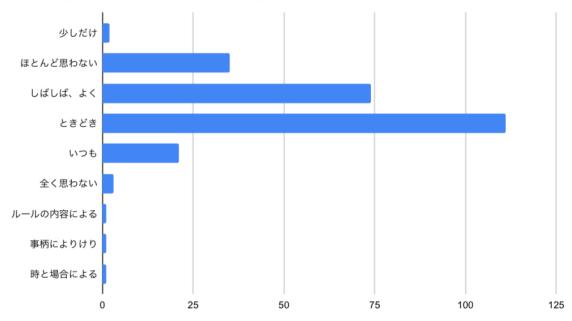
周囲の期待や自分の理想が高すぎて、現実と理想の自分が大きく解離して、ダメな自分と自己否定感を強く感じ、苦手な部分は克服しないといけないと思う人がいます。一方で、現実と理想の自分が近いと感じてそこそこ満足していたり、解離していても折り合いがついていたり、将来や過去の自分、周囲の期待よりも現在の自分に注目して生きている人もいます。後者の方が生きづらさは少ないと一般に思われているようです。

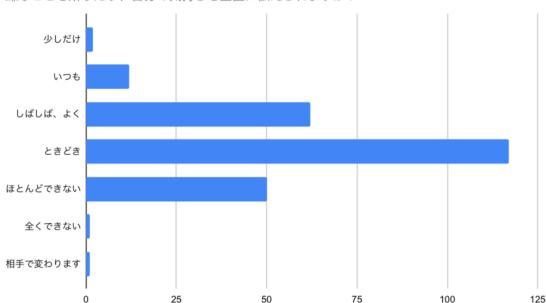
6.同調圧力・社会規範

空気を読んで人に合わせたり、いい人でいないといけないと思いますか?



ルールを守らない人はダメだと思ったり、許せないですか?





嫌なことを断ったり、自分の気持ちを正直に伝えられますか?

空気を読んで人に合わせたり、いい人でないといけないと思っている人は約5割でした。 ルールを守らない人はダメと思ったり、許せない人は、約8割でした。嫌なことを断ったり、自分の気持ちを正直に伝えられる方は、約8割でした。

社会規範や他者からの評価基準で、自分や他者を責めたり強要したり、正義感が強くなるあまり、かえって攻撃的な言動や行動が出たりすることもあります。反対に同調圧力に屈して自分の思っていることを正直に話せないこともあります。新型コロナウィルス感染予防の自粛行動にもこういう場面は往々にしてありましたが、どちらも生きづらさを感じている人が多い様に思います。

「他者からの評価基準を内面化し、それによって自分を責めざるを得なかったりする。ま じめで良い子が豹変したとみなされる」と*6)特別支援学校の校長を努めた広木克行は著書 の中で述べています。

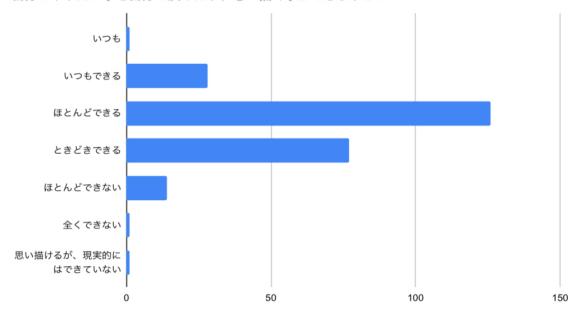
みんなで一緒に協力して、イベントや行事にすることが好きな人にとっては、受け入れて くれる人や居場所や役割がないと孤独や排除された気持ちなどでつらい気持ちや生き甲斐 を感じなくなる人もいる。一方で、ひとりで行動する方が好き、気楽だと思う人もいます。

脳科学者 茂木健一郎 (JPIC YOUTH 10 代から始めるリベラル・アーツ https://youtu.be/fa1ezXX2sik)の中で、「居場所や安全な寄港地があることで自由に生きられる。自由に選択して、自分には合ってなかったり、失敗しても安全な寄港地がある事でやり直す事ができる。寄港地は血縁ばかりでなく、今までとは違う自分になるために行動を起

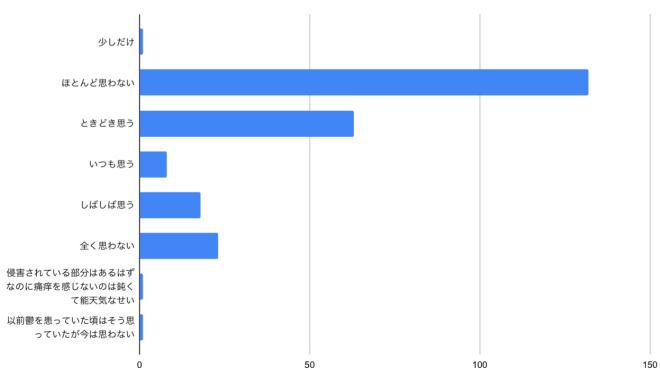
こしていくと、様々な縁ができ、寄港地になっていく。スウェーデンの教育は、小学生から リベラル・アーツの教育を実施している。興味のある事を掘り下げたり、関連することを自 由に選択して勉強する事ができる。こういう教育でもスウェーデンはペーパーテストの様 な標準学力も世界でトップクラスでありながら、生きていく上で大切なことを自然と無理 なく、没頭して身につけていける。若くして起業する人も多い。」と発言しています。

7.自己決定と人権

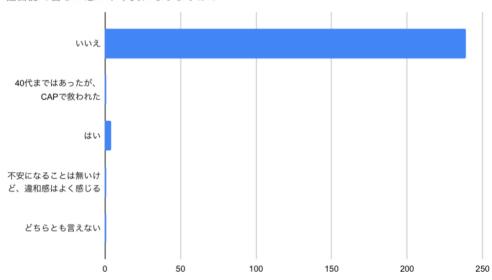
自分のやりたい事を自分で決めたり、思い描く事ができますか?



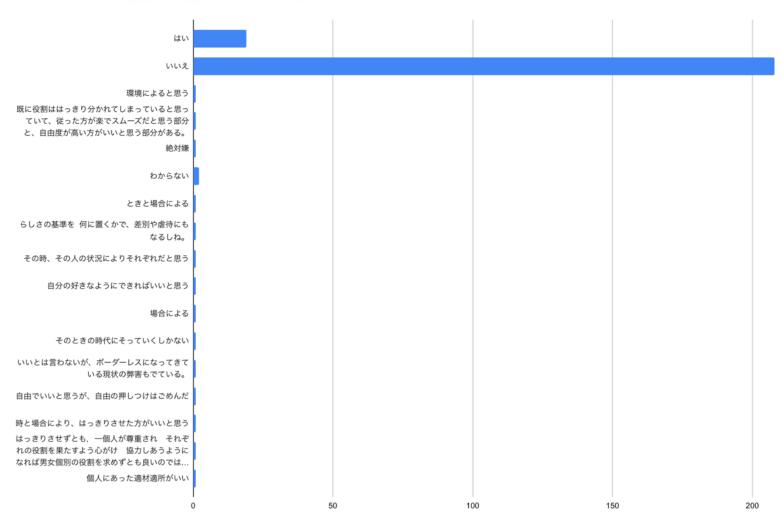
自分の人生を犠牲にしたり、人権を侵害されていると思いますか?



性自認で苦しい思いや不安になりますか?



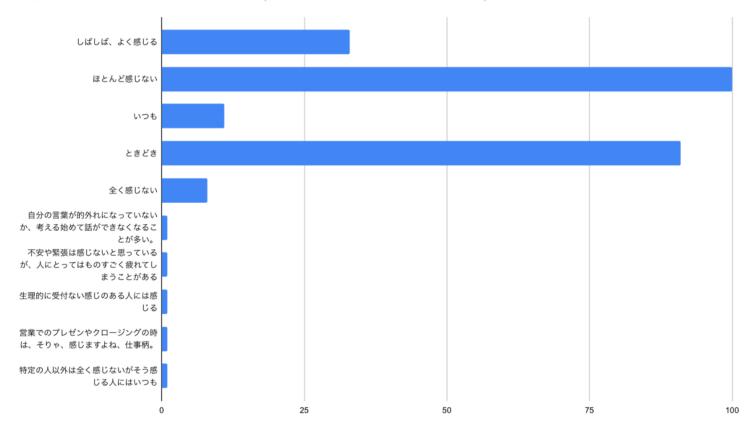
男らしさ女らしさ、男の役割や女の役割がはっきりしている社会のほうがいいと思いますか?



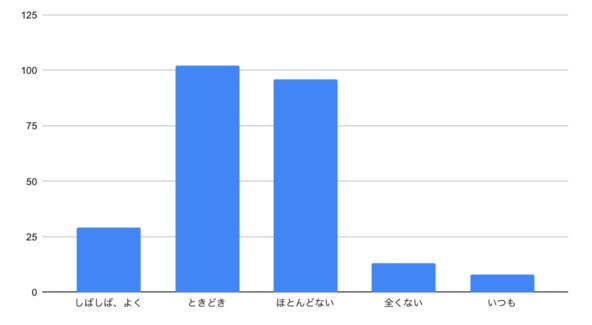
脳科学者 中野信子(人生に意味なし。生きることの意味とは? https://youtu.be/d2ehUUFqrjc) の中で「自由を好む人は、自己決定には脳の前頭前野を使って、自分で選択したり決めたりするとドーパミンが出て快感を感じる。しかし、日本人は自分で意思決定するより、誰かに決めてもらってその通りに生きた方が楽だと思っているのが7割以上という統計がある。日本の社会の中では、協働、協調で、個よりも社会を大事にして、嫌われないように生きた方が生きやすいと感じていたり、仕事をなくさずにすむと思われている。個を殺して組織に仕えた方が、使えるやつだと思われている。しかし、最近はグローバル社会で自己決定できる人が少しずつ増え、自己決定できる人の方が有利になる社会に少しずつ変わってきている。ただ、日本の社会通念に抗って、その通りに行動して自由に生きる方が、まだまだ逆の意味で不自由で、自分と葛藤する事にもなり、ストレスを感じる。日本社会でどちらの生き方を選ぶか試してみることは自由にできる。」と発言しています。

8.対人恐怖や過敏性

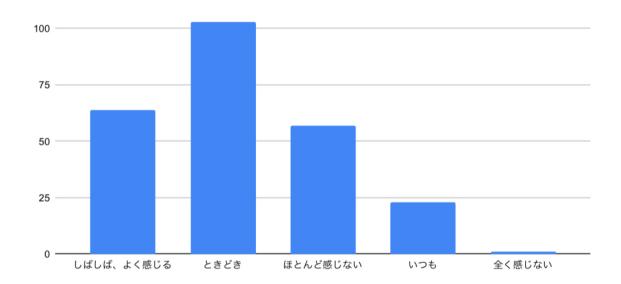
人と接するとき、強い不安や緊張を感じますか? (該当しない場合、その他に自由記載できます)



イライラが強く、なかなか気持ちの切り替えができないですか?





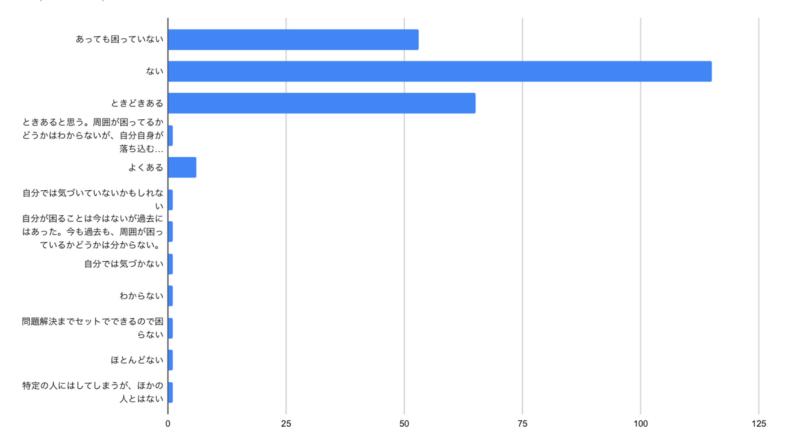


しばしば教育や職場などの現場では、*6)特別支援学校の校長を努めた広木克行は著書の中で「自分の不安を仲間との関係内での解消を迫られながら、それに合わせられない自分を自分で責めたり、身動きが取れなくなったりする対人恐怖的苦悩」と述べています。

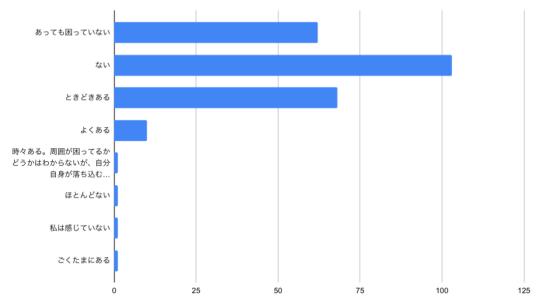
もともと過敏性であった人はさらに過敏に感じ、身動きが取れず生きづらさにつながると思われます。

9.発達障がいや苦手意識

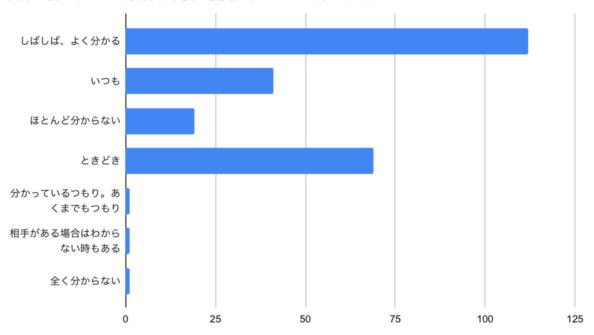
衝動(しょうどう)的な行動をしてしまい、自分や周囲が困ることがありますか?











発達障がいや苦手意識については、アンケートに自由に記入していただくことが多いことからも関心の高さを感じました。

*6)特別支援学校の校長を努めた広木克行は著書の中で「障がいゆえに生きづらさを感じているわけではなく、(中略)自分の言動が周囲から理解されないときである」と述べています。

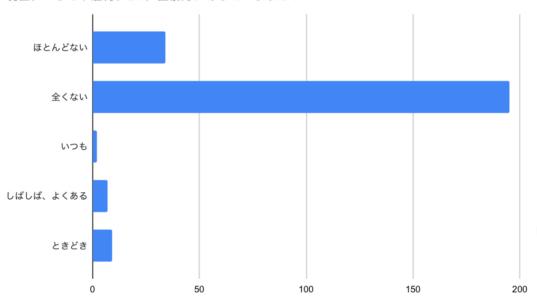
発達障がいが原因ではなく、周囲に真意が伝わらず誤解されたり、ありのままの自分を否定される言動や関わり方で生きづらさを感じると捉えることができます。

人が社会に合わせるのではなく、社会が人に合わせる、寄りそう、変化していく世の中となれば、「生きづらさ」から少しは解放されるのではないでしょうか。

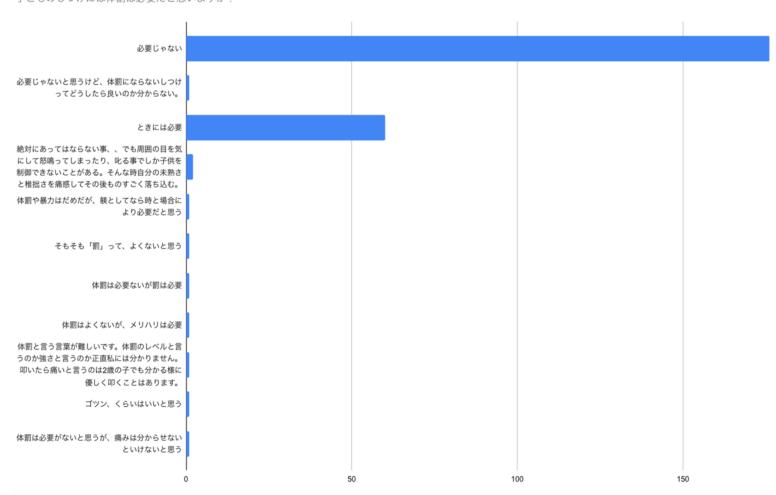
それには、人権意識を幼いころから持てるように、人権教育を初等教育から始めて、年齢に応じた内容を高校、大学まで実施し、同時に周囲の保護者や教育、福祉関係者まで理解を深めていくことが大切であると思います。国際教育、ICT教育に加えて人権教育を重点的に実施しないと片手落ちのようになり、子どもの幸せにつながらないのではと思っております。

10. 暴力のトラウマや環境

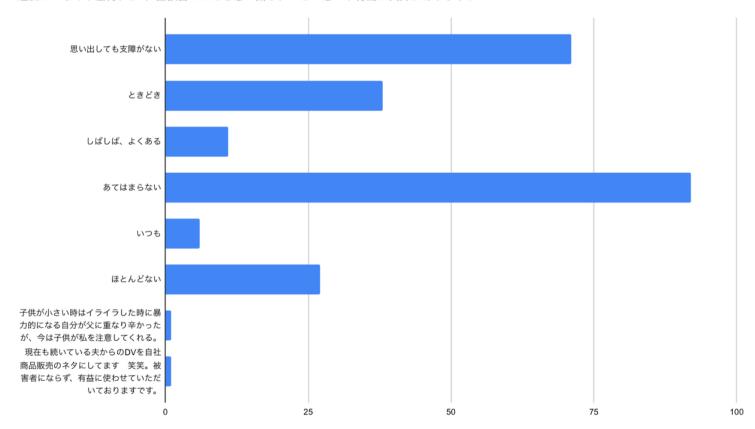
現在、いじめや虐待、DV、性暴力にあっていますか?



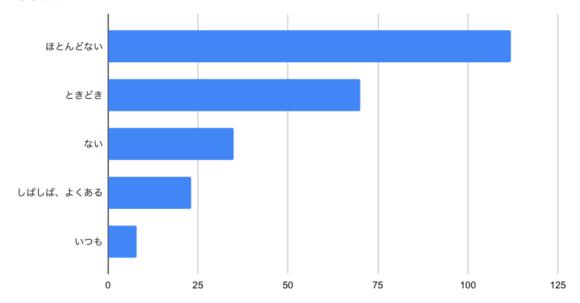
子どものしつけには体罰は必要だと思いますか?



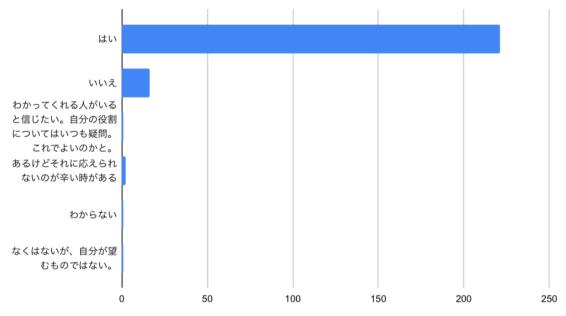
過去のいじめや虐待、DV、性被害のことを思い出し、つらい思いや行動に支障がありますか?



人を信用したいと思っても、ささいな事で見捨てられた気持ちになったり、期待し過ぎたりしますか?



自分のことを分かってくれる人や居場所、自分の役割がありますか?



私たちCAPいばらきの活動は、子どもへの暴力防止です。子どもの人権にスポットを当てることで、社会の中で弱者ととらわれがちな女性や障がい者や、差別される立場になるあらゆる人々や場面をみんなで考える機会をワークショップを通じて作っています。

アンケートの中でも現在、いじめや虐待、DVや性暴力にあっている方がいましたが、声をあげていい、助けを求めていいし、そんなことされていいあなたではない、大切なあなたですとワークショップやトークタイムの中で伝えています。

また、過去のいじめや虐待、DV、性暴力のトラウマでつらい思いや行動に支障がある方もいらっしゃいました。信頼できる人をあきらめずに探して、過去のことも話して助けてもらうことは、恥ずかしいことではなく、勇気のある人と伝えています。

自分のことを分かってくれる人や居場所、そして自分の役割があることは、自分と他社の信頼感、安心感を形成するのに大切です。居場所作りが行政やボランティアでも多くなってきましたが、自分に合った居場所や人と出会えるように、小規模でも数多く作られることが大事であると思っております。そんな場所や人に出会えた人は、今度は自分が居場所を作る役割となり、いいつながりが広がることを期待しています。

11.その他

その他に生きづらさを感じることはありますか? (自由に記載していただいた内容をご紹介します)

妊娠、出産を経て人生が変わるのは女性や子ども。でも、人生が変わるサポートが欲しい。どう働けば、お金が以前と変わらず貰えるのか、どう働けばそのお金をもらいつつわが子を大事にできるのか。でも、現実は人に迷惑をかけて育児をしていることがほとんと。この先も育休が終わるとき、保育園に入れるか入れないか分からるのが1月から2月。ギリギリ入れても分かるのが3月。もうその時にやっぱり保育園入れませんでした。育休延長してくださいといえば、人事も決まって次年度に向けて動いているのにまた人事の組み直しになる。人を採用しなければいけない。これのどこが迷惑じゃないのか。子育てって周りからも理想を押し付けられて、ある意味子育て当たり前DVに思えてなりません。

親と対峙している時だけ、自分が別の人のようになってしまう。なんべんも、親の前でも、自分がありたい自分でいようとしてきたけど、何十年も失敗している。もう親が生きているかぎり、それは無理なんじゃないかと思う

自分を認めてもらいたいと思う気持ちと、回りから期待される自分でありたいという気持ちから、好い人と思われたい気持ちが働き、頑張る人になってしまい、精神的にも身体的にも疲れてしまうことがある。そして、本当の気持ちを素直に出せないことで苦しい思いをすることがある。

何をする場合でも、インターネットや SNS を通じて行うことが多くなっていること。 (このアンケートも含む) 現在の世の中で、生きづらさを全く感じないとしたら、そのこと に問題があると思います。

義母との同居、遠くの親の介護。

自分の思う事を発言して、今までこうしてきたのに意見するなんて!と言われる事が多くある。出来るわけない。と否定されたり、変化を好まれない。

子どもがいると女性はママと言うだけで社会復帰が出来ない。保育園はフルタイムでバリバリ働く人優先で、徐々に慣らすなんて言っていたら入れない。これからの社会を担う子どもを育て、少子化止めてくれてるのに働くならフルタイムじゃなきゃいけなくて、子どものせいで残業出来ないとか休むとか言えば嫌な顔されてる。 ニュースで事件があると

ママが子どもを置き去りにして男と呑みに…など、ママが悪いと報道される。パパは?ママが息抜きするために支援はなかったの?と言う救いがない境遇はピックアップされない。ママ 1 人で子育てを背負わされ、仕事も自由が効かず、息抜きすれば後ろめたさを感じる世の中に生きづらさを感じます。ママ、みんな頑張ってるのに。仕事してるママも専業のママも。私は支えてくれる家族がいるから何とか生きているけど…だから少子化進むんだよって社会にいいたい。

金銭面での将来の不安がある

世代間連鎖を痛感している。 複雑性 PTSD に対応できる心理カウンセリング・療法を地方にも充実させて欲しい。 薬物だけでは対処療法で根本解決に至らない。

他人の価値観に振り回されてしまうことがある

シングルマザーですが、子どもが不登校で仕事に行けない。まだ低学年の子を置いて 仕事には行けないし、預け先もない。

不測の事態や問題を正しく理解することの難しさと、その理解の仕方や問題解決の ための見立てが異なる人々と調整し共通理解し、解決をしていくことの難しさ。

仕事をしたいが健康面で難しく、将来が不安。 職場にも後ろめたさや、他の社員へ の劣等感がある。 勉強をしたいが、経済的に難しい。

人にはわかってもらえないような形で、モラルハラスメントを受けていと感じる。 「私は~と感じた」とアサーティブに言えば相手を傷つけることにならないと思って発する言葉に私は恐怖を感じている。直せるのは自分しかない、人は直せないと思うとき、関係を断つことしかないと思っている。

過去に親との関係で感じていたが、それは解消した。

一旦仕事を辞めると、再就職が困難である。女性の場合は、育児・家事を優先させる ため、非正規雇用がほとんどで、まともな収入が得られない。女性が行きづらい社会だと強 く感じる。

職場などでの他人との関係がうまくかいかない。自分の場所が無いように感じる。

不登校の子の、あまりお金のかからない居場所が少ない

ひきこもっていればつらいことはないです。

悪気はないのに、失礼なことをしてしまいがちなことが不安です。

今の自分は心の支えになる人がいるので感じることはなくなりましたが、コロナ渦 で孤独で不安になっているひとが大勢いると思う。独りじゃないと伝えたいです。

たくさんありすぎて書ききれない。

今感じることはないが、集団が苦手なので、人が集まる場所に行かなければならない 時ストレスを感じる。

高齢者になつていく自身の経済的な不安。年金だけでは、多分暮らせない。病気の際、 経済的理由であきらめなければならなくなりそう。今でも、医療費は高い。

日常生活でストレスゼロの気持ちはなこなか難しくそれを自分でどうコントロール するか日々修行!?のつもりで生きてる感じ。 生きづらさがない事は、ストレスフリーって 事なのかなぁ…何だろう…

そもそもインフルと比較して致死率の低い日本で、マスコミがコロナ使って恐怖心煽って(それ 政府の方針だろうけど)日本国内の【強制圧力】が高くなっているので、マスクしてないと非難がましい目で見られたり、うかうか花粉症にもなれなかったり…もうねー ただでさえ 人の目を気にして生きてる日本社会なのにますます空気感が生きづらくなりました。

言葉を鵜呑みにしてしまう時が良くあるのでリップサービスが許せず辛い。

テレビ番組が面白くない日がある。

会社の人間関係が難しいと感じます。

アパートに住んでいますが、上の階や隣の騒音や車の通る音が気になります。 その他に、自分が将来、年金をもらえないかもしれない、税金は高くなるばかり。 無駄な経費が多い国のやり方に問題があると思います。 議員を半分以下にすべきです。

日本では自分の意見ををはっきり言えないときがあると感じます。周りを気にせず 思うように生きていける時代がくるといいと思います。

子どもが発達障害です。学校や周囲に人から理解してもらえないことがあり、苦しく 思います。

色々な人がいる世の中で、いい意味で人の事を気にしないようにしないと生きづら いと思います。

マスクの生活。発音が聞き取りにくい。誤解を招く事があります。接客業なので、注意して聞こうとして気疲れしてしまう。マスクの生活がいつ終わるのか 生きづらさを感じる。

自分の力ではどうにもならない問題にぶつかった時、戸惑うことはある。それは、自分のことよりも、子どものことであったり、身内の問題であったりする。自分自身は、現在は、健康で経済的にも困窮しておらず、多少の人間関係の煩わしさなどは気にならない。自分のことに関しては、生きづらさを感じても、はねのける力がまだあるのだと思う。それよりも、家族の心配が先に立ち、自分のこと以上にあれこれ悩み、落ち込み、どう進めばよいか、わからなくなる時がある。

白髪を染めなかったり化粧をしないことを無精だと言う人が世間に多く、それらを しない理由を説明するときに、面倒だと感じる。

親が高齢になってくると通院 買い物、様々な事が1人では難しくなり、付き添ったり、代わりに行うことが増え、負担が大きくなっている。仕事との両立の為、時間のやりくりが難しい。自分自身も更年期など体調の変化もあり、年齢を重ねると今までのように動けず、やる事がたまってしまう。いつもやらなければならない事に追われている感じがある。

親が高齢で、自分が仕事をやめ、付き添う等の犠牲が必要なのか、それを親が望んで いること

インターネット社会について行けない事は大変です。しかしまだアナログ生活が出来ているので楽しんでいるのが現状です。

女性は男性と同じようにフルタイムで働いていても、そのほかに家事育児、家族の介

護なども請け負わなければならず、男性のように「仕事があるから」では逃げられない。

情報過多により、何が本当かわからない時があったり、多種多様が又許されたりと、 これが正しいと言えない世の中になってます。何でも有りの時代が怖いです。自分の守りに 入ってますよね。

この世の常識とされていることすべて。生きることが面倒臭い。

社会や集団よりも個人主義、自分さえよければの風潮が進んで、真面目な言動をとったり、個を後回しにする人が評価されず損をしているような思いをしたり、老人子供女性、 社会的援助が必要な人に対して冷たい社会を見ていると、今の日本はいきづらさしか感じない。

自分のやりたいことを優先すると罪悪感を感じてしまう。どんなときも他人から頼まれたことを優先しないと、自分が周りから認められているという感覚を得られない。 例えどんなに忙しくても、頼まれれば何でも受けてしまうので、苦しくなるときがある。

自分の思い通りに全てはいかないが、辛いと思うことがたまにある。だが、その思い こそいけないと感じてしまう。

自己中心的な考えの人々が増えてきていると感じる現在 道理を重じて行動しようと心がけているが、例えば、車一台に譲ったところへ何台もの車が割り込まれ 自分の後続車からもクラクションを鳴らされる 人々の心に余裕が無くなり、殺伐とした社会になっているように感じる 親兄弟でも同じことが起きそうにある

できない自分を受け入れられないため、他人や他の人に助けてが言えない。 家の中が片付かず、それが家族関係悪くしている。 分かってはいるが、他人にこの状況を知られたくないため、なんとか自分でやろうともがいている。

大小違いはあれど、誰であれ「生きづらさ」は感じるものだと思っています。 生き ているだけで、丸もうけ。

どこへ行っても人と接することが怖い。田舎はいろんな噂が生活の一部になっているので犯罪者のような目で見られる。実際、犯罪は犯していない。

セクシュアルマイノリティだと言い出せないこと。 親との価値観、ジェネレーショ

(引用、参考文献)

- 1) 一般社団法人ひきこもり UX 会議,2017,「女性のひきこもり・生きづらさについての実態調査 2017 報告書」
- 2)認定 NPO 法人水戸こどもの劇場,2017,「平成 27 年度茨城県自殺防止対策モデル事業報告書 |
- 3) 茂木健一郎,長谷川博一,2019,「生きる-どんなにひどい世界でも」,主婦と生活社
- 4)特定非営利活動法人地域生活支援ネットワークサロン,「ネットの居場所ポータルサイト」,https://shinitori.net/
- 5)山下美紀,2012,「子どもの生きづらさー子ども主体の生活システム論的アプローチ」,学文社
- 6)広木克行,2009,「子どもたちの生きづらさの背景と教育の課題」,クレスコ編集委員会・全日本教職員組合『クレスコ』99,大月書店
- 7) 雨宮処凛・菅野稔人,2008,『「生きづらさ」について:貧困、アイデンティティ、ナショナリズム』,光文社
- 8)本田由紀,2006, 『「ニート」って言うな!』,光文社
- 9)川北稔,2009,「若者の「生きづらさ」と障害構造論」『愛知教育大学教育実践総合センター 紀要』第 12 号

第二章 かけがえのない子どもたちを支えるために、 私たちが出来る事と司法の関わり

- 1. 岩城正光弁護士 講演会
- 2. 講演会参加者の感想

1. 岩城正光弁護士 講演会

「かけがえのない子どもたちを支えるために、 私たちが出来る事と司法の関わり」

(2020・10・10弁護士岩城正光 当日配布資料掲載)

- I 児童虐待が起きる前に、私たちができることには何があるでしようか。 〈子どもの成長を考えるための前提理解〉が大切です。
- 1 同じ家族だけど、夫婦と親子の違いは何でしようか。
 - → 親子関係は夫婦と違い、子に選択の余地はない。
 - → 子どもは自己責任で生まれてきたのではありません。責任はあくまで生んだ · ・ // **
 - 側 (親)にあるのです。
 - → 「子どもを育てる」ということは、生んだ側が子どもに「生まれてきたこと、 産んでもらったことか根本的に善いことであったと納得してもらうこと」を課題として背負っているのです。
 - → 「子どもを育てる」ということは、無条件の愛を子どもに注ぐことです。条件付きで愛するのではなく、無条件で愛する。これか子どもにとって、人生の初期体験になります。子どもが成長するに従って、自分で責任をとる事態が増えていき、実際に責任をとる必要がでて来ます。これが「人間か育つ」という内容の柱になり、責任主体として育つということが、大人になるということです。
- 2子ども期とはなんだろう。

子ども期は、ある領域までは自己責任だが、生きていく基本である「生きていくための糧を稼ぐ」とか、「政治的な判断をする」とか、「地域社会で重要な役割を果たす」という領域ではまだ責任をとる必要はありません。自立的な生活主体となる練習をする時期が「子ども期」なのです。個人的なレベルでは失敗して責任をとることを要求されても、責任は問われないという大切な時期です。

自分で自分の人生を楽しく,その子らしく創っていく練習をする時期である。

- → 親子法の基本は、「どうしたら子どもの育ち(人権)を守れるか」です。
- 3人間が育つという意味について考えてみましよう。

カント(湯浅正彦・井上義彦・加藤泰史(訳), 2001)は「人間とは教育されなければならない唯一の被造物である」と述べます。ここにいう教育とは、「養育(養護・保育)」と「訓練(訓育)」および「人間形成をともなった知育」です。

カントは、「積極教育」・「早期教育の必要」を主張し、「人間は教育によってはじめて人間になることができる」こと、「人間は人間によってのみ教育される」こと、「教育を受けた人間によってのみ教育される」ことを指摘しました。

- 4子どもの人権(子どもの権利条約)
 - 子どもの人権の特徴とは、どんなことでしようか。
 - ①子どもの人格の成長・発達の過程そのもの(子ども期)を,「子どもの人権」として捉える必要かあります(一般の人権享受とは異なる理解が必要)。
 - ②子ども自身では、子どもの人権を主張し、自ら人権擁護する能力を持たないのです (①「身の未成熟性」、②「依存性」、③「成長可能性」)。 大人からアドボケイトを受けることは、子どもの人権の中核です。
 - ③子どもの権利条約における「子どもの最善の利益」の実現は、国家の責任である と考えます。

「子どもの最善の利益」の実現に向けた国の「関与」は、国の「義務」として 認められないのでしようか。憲法は、親の養育・教育権の濫用から子どもを保 護する具体的義務(義務違反に対しては国家賠償を請求しうる)を国家に課して いるのではないかという問題でもあります。

- ④単に社会権的側面とは異なり、子どもが一人の人間として自由権を享受できるように特別に配慮することが「子どもの人権」です。 少年法や子どもの学習権、家族法における子どもの権利を総体的に保障するには、 新たな人権概念として理解する必要があるのです(子ども基本法の制定)。
- ⑤子どもの人権は、親・国家との三立構造として理解されるべきです。 そこでは、国家との関係では子どもを要保護者として理解する福祉法的側面がある一方で、「子どもの意見表明権」に代表されるように個人としての尊厳としての自律しに自由権享受主体としての人権理解か以要です。
 - → 米ニューヨークで開かれた国連気候行動サミットで演説し,気候変動問題について行動を起こしていないとして,各国首脳を非難したスウェーデン人の環境保護活動家のグレタ・トゥーンベリさん(16)を批判する一部マスコミの存在。意見表明権は,「発達」と「学習」の融合であり,民主的なコミュニティづくりに積極的に参画する権利そのものなのです。
- 5子どもの最善の利益と子どもの意見表明権一アドボカシー
- 6子どもの貧困とは?(貧乏と貧困とは違います)
- 7 しつけと虐待の区別は?
- 8 なぜ親は子どもを虐待するのでしようか?

Ⅱ 虐待と DV に曝された子どもの症状について

1 子どもの心身への影響

・行動への影響

他人や自分への暴力,落ち着きがない,発達の遅れ(発達障害との混同),退行,過剰 適応,依存,不登校→学力不足(→不登校・ひきこもり)

・感情への影響

自責感,罪悪感,無力感,不安感,緊張感,孤立感,自尊の低下,怒り,感情鈍麻,希死 念慮

精神科でケアの必要な子どもも多い

・価値観(信念)への影響

異力の正当化,ジェンダー観,母親の自業自得,愛情かあるから支配する,女性**蔑**視 →次世代の DV の可能性(暴力の世代間連鎖)

- ・知的側面の影響
 - →学習の遅れ
- ・母子, 兄弟関係の悪化など

暴力にさらされた年齢,期間,サポートの有無,等で,影響の大きさや,その影響が続く期間は,個人差が大きい。暴力の連鎖も必す起きるわけではないけれど,ケアが無ければ連鎖が起きても不思議ではありません。

- 2 暴力を経験した子どもに必要なことは何でしようか。
 - ・聞いたり見たりした暴力は、話してもいいことを伝える。
 - ・子どものせいで、暴力があったのではないことを伝える。
 - ・暴力行為は悪いことだと教えるが、加害者を否定しない(悪者を作らない)。
 - ・子どもが加害者に対して抱いているさまざまな感情を受け入れる。
 - ・対等な人間関係、男女の関係のモデルを示し、尊重して扱われる経験を重ねる。
 - 怒りの感情を含むさまざまな感情を尊重する
 - ・怒りを暴力以外で表現する方法を知るなど

3 愛着の問題について

①反応性愛着障害

極端に制限されたアタッチメント行動が特徴であり、 困難な場面でも養育者に対し、世話や保護を求める努力をしない。

②脱抑制型対人交流障害

見慣れた大人に対して、ためらいなく近づき、過度に馴れ馴れしく振る舞う。また不慣れな状況であっても、大人の養育者に振り返って確認するということも乏しいという行動上の特徴がある。

③病的愛着(トラウマティック・ボンディング)

いわゆる「ストックホルム症候群」(人質が犯人と長時間過こす中で,生き残るために犯人に共感・好意を抱く反応)

- 4 DV の間違った神話
 - ①ストレスや飲酒が暴力の「原因」た。
 - ②暴力をふるう人は「病気」なので治療が必要。
 - ③被害者の努力で力は減らせる。
 - ④異力が酷ければ逃げるはす,逃げないので大丈夫。
 - ⑤謝罪されたら許して、加害者の反省を受け入れるべき。
 - ⑥異力をふるう父親でも,子どもには父親は必要。
 - ⑦女性が安全に別れられたら, それで問題は解決する。
- 5 内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成 29 年度)
 - ① 配偶者間の異力の被害経験

夫→妻妻→夫身体暴力1 9. 8 %1 4. 5 %精神的暴力1 6. 8 %1 0. 0 %経済的圧迫1 0. 0 %2. 9 %性的暴力9. 7 %1 .5 %

② 別れなかった理由

子どもがいるから 6 6. 8 % 経済的理由 4 8. 9 %

- ③ 子どもがいる被害者のうち 子どもへの暴力があった 21.4%
- 6性的被害者を悩ませる後遺症
 - ①的外傷後ストレス障害(PTSD)
 - ②男性恐怖症
 - ③被害に遭った場所を通れなくなる。
 - ④被害時の状況を思い出してしまう様な環境に拒否反応が出る(嘔吐や動悸,体の震え, 思考停止など強い拒否反応)。.
 - ⑤自分は汚れてしまったと感じる。
 - ⑥恋人や配偶者とのセックスが出来なくなる(性行為=嫌悪感, 苦しみ, 恐怖)。
 - ⑦性犯罪に遭った事実に対して嫌悪感や、苦しみ、辛さ、恐怖を覚える。
 - ⑧カウンセリングに通うにも気かいる。

- 7 DV や性被害者に「なぜ」という問いかけをしない。
 - ①「何故」=非難、自己責任→援助希求意欲の減退
 - ②「あなたが逃けるのをためらう原因は何ですか」→学習性無力感
 - ③被害者供述の信用性, 抗拒不能状態の判断は専門的知見を活用すること。
- 8 支援にあたって留意することがあります。
 - ①転移感情(自分しか A ちゃんの苦しみを理解してあげられない。A ちゃんには自分がいないとためだ)
 - ②陰性感情(A ちゃんは他人のせいにしてはかりで,わがままなだけ)

被虐待児への支援では、関わる大人の情動が大きく揺さぶられることに注意してください。

Ⅲ司法との関係について

- 1日本での児童虐待についての法体系を見てみましよう。
 - ①基本法としての民法の親族法(親子法)
 - ②特別法としての児童福祉法(養育困難家庭の親と子の関係を規律している)
 - ③児童福祉法のさらなる特別法としての児童虐待防止法(単に養育困難家庭から, 虐待家庭についての特別な法律)

この3層構造からなる法体系の結果,日本では「児童虐待」とは「保護者等による虐待」という主体が限定されているのです。この「児童虐待」概念は世界では通用しないものです。親以外の大人からの虐待(例えは,スポーツコーチからの虐待)は、世界では広く「児童虐待」とされていますが,日本では「児童虐待」の分類に入らないのです。

- 2民法改正(平成23年)ー児童虐待の防止を図り,児童の権利利益を擁護する。
 - ①民法820条「親権を行う者は,子の利益のために子の監護及び教育をする権利を有し,義務を負う。」
 - ②懲戒に関する民法822条が「親権を行う者は,第820条の規定による監護及び教育に必要な範囲内でその子を懲戒することができる。」とされ,親権は子の利益のために行使されなければならないことが明記されました。
 - ③協議離婚に際して子の監護に関する事項を定める民法766条1項について「父又は母と子との面会及びその他の交流,子の監護に要する費用の分担、その他子の監護について必要な事項は、その協議で定める。この場合においては、子の利益を最も優先して考慮しなければならない。」
 - ④親権の制限については、従来、親権喪失宣告(民法8 34条及び児童福祉法3 3 条の7)と管理権喪失宣告(8 35条)の制度がありましたが、新たに、「親権停止の審判」の制度か導入されました。民法8 34条の2は、「父又は母による親権の行使が困難又は不適当であることにより子の利益を害するときは」「家庭裁判所・2 年を超えない範囲内で」親権停止の審判をすることができる(1項及び2項)。更新に関す

る規定はないので、停止期間満了時に引続き親権停止か必要であれは、再度申立てをすることになります。考えられるケースとしては、児童相談所か親権者の意に反して児童を施設や里親に措置した場合(児童福祉法28条1項1号)で、親権者が、頻繁に施設や里親に不当な要求を出したり児童に付きまとうなどの場合、あるいは医療ネグレクトで、治療が終われは親権者のもとに返すことに支障かないケースなどがあります。

⑤親権喪失原因の見直し

民法834条は親権喪失の原因を「親権を濫用し,又は<u>著しく不行跡</u>であるとき」と定めていました。これを「父又は母による虐待又は悪意の遺棄があるときその他父又は母による親権の行使が<u>著しく困難又は不適当であること</u>により子の利益を著しく害するとき」と改正しました。

⑥申立権者

親権喪失の申立権者は「子の親族又は検察官」とされていましたか、これを親権停止、親権喪失及び管理権喪失のいずれについても「子、その親族、<u>未成年後見人</u>、 未成年後見監督人又は検察官」と改正され、また児童福祉法33条の7の改正により、児童相談所長は、従来の親権喪失に加えて、親権停止、管理権喪失の申立てもできるようになりました。

⑦未成年後見人制度の改正

未成年後見人の人数を 1 人に限定していた民法 842 条が削除され,成年後見人同様複数選任が可能になりました。これに伴い民法 857 条の 2 が新設され,権限の共同行使が原則とされた(1項)。他方,家庭裁判所は職権により,一部の者の権限を財産管理権のみに定でき(2項),また財産管理権の行使に関して権限の分掌を定めることもできる(3項)。これに伴い,親族と弁護士が未成年後見人に就任して役割分担することか可能になりました。また法人か未成年後見人に就任することも可能になりました(840条3項)。

⑧医療ネグレクトについて

医療ネグレクトとは、子どもが医療行為を必要とする状態にあり、もしその医療行為をしない場合には、子どもの身に被害が生じる可能性があるにもかかわらす、親権者が必要な治療を受けさせない場合を指します。日常的なネグレクトに伴い、虫歯や中耳炎などの治療を受けないという軽微なものから、手術をしないと生命が危ういにもかかわらず、特定の宗教上の教義を理由に輸血や手術に同意しない、というケースもあります。昭和60年聖マリアンプ医科大学で起きた、いわゆる川崎事件(10歳9か月の男児が交通事故にあい、輸血を伴う手術が以要であったか、両親が工ホバの証人の信者で輸血を拒否したため、病院搬送の4時間余り後に、出血性ショックで死亡した事件)が著名です。親権停止制度が新設されたことで、今後は、親権喪失よりも親権停止審判を申立てたうえで、保全処分の申立てを行うことになります。

⑨児童福祉法と親権

児童福祉施設入所児童で,親権者も未成年後見人もいない児童は施設長が親権を 代行する(児福法 47 条 1 項)。里親に委託中の児童で,親権者も未成年後見人もいな い児童は児菫相談所長が親権を代行する(児福法 47 条 2 項)。一方,児童福祉施設入 所児童及び里親委託中の児童で、親権者か未成年後見人がいる場合は、施設長や里親は、監護、教育及び懲戒に関し児童の福祉のため必要な措置をとることができる(児福法47条2項)。例えは予防接種や精神科への入院、精神科医の投薬指示があるときの服薬などについて、親権者が反対した場合、親権者の意向に従わなければならないかそれとも施設長等の判断で進めてよいか問題かありました。そこで児童福祉法の改正により、親権者等は、施設長等の措置を不当に妨げてはならず(改正児福法47条4項)、児童の生命・身体の安全確保のため緊急の必要があるときは、施設長等は、親権者等の意に反してもこれを行うことができる(同5項)とされました。

5子どもの手続代理人

家事事件手続法では、一定の類型の事件については、<u>意思能力があれは、</u>子どもであっても手続行為能力があることが法文上明記されました。親権者の指定が問題となる離婚調停や子の監護に関する処分の審判・調停手糸売等、その結果が子どもに直接的な影響を及ほす場合において、子どもの利益のために活動する子どものための手続代理人か実現可能となりました。

6体罰禁止について

体罰肯定論者は、①愛のムチ論、②スキンシップ論、③教育目的論、④教育効果論、を挙げています。しかし、2019年6月、日本は体罰禁止を明記した法改正を実現しました(児童虐待防止法14条1項。児童福祉法47条3項イ旦書)。世界では、日本の他に58ヶ国か体罰全面禁止国となっています(2019年10月-1日現在)。子どもの養育に体罰等を用いないことが社会規範となり、法改正か実効力をもつためには、継続的に社会啓発を行うことが非常に重要です。

7 一時保護についての司法審査(児童福祉法33条5項)

Ⅳ家庭内暴力を見つめる(私論)

シンポジウム「生きづらさを考える」虐待を考える

程度の差こそあれ、家庭内における暴力(虐待・(V)がどこの家庭でも認められる。

暴力を振るう者も,振るわれる者も,暴力を通じて「生きづらさ」を抱える。暴力だけを捉えて加害者(虐待親・バタラー)だけを-方的に非難することはたやすい。

実は加害者にも表面的には見えないが被害者性が隠れている。虐待する親(加害者) も実は被害者なのだと思う。虐待親にはかなりの確率(40%との米国の統計がある)で 幼いときの虐待が背景にあることがわかってきた。「虐待の連鎖」とも言われている。

加害者の内にある被害者性に目を向けないで、加害の点たけを責めても、再暴力を止めることはできない。加害者にも自覚できていない被害者性を理解させることこそが 真の暴力防止の契機となるのではないにろうか。

ひょっとすると暴力という表現行為は、虐待親が(無意識にせよ)自身の被害者性に気づいてほしいとのS○Sかもしれない。

虐待親の個人責任たけを追求しても、虐待親も被虐待者も、家族という絆が破壊されただけで一人-人の生き直しにはつながらない。虐待という悲劇を幸せに転化する智恵をわれわれ社会は持ちあわせるべきではないか。

虐待防止の目指すところは、家族再生である。「家族の再統合」とも言う。虐待親に、 虐待してしまう自身の課題、例えは子ども期における体験だとか、遺伝子による人格傾 向として解明されるなど、なんらかの気づきを与えられる仕組みづくりは社会の責任で もある。

しかし、児童相談所には到底そこまでの力量を備えていないし、期待する方が無理である。 虐待親を治療する病院やカウンセリング・プログラムはすでに米国では完備されている。 裁判所さえ「DV コート」という家族内の暴力について専門性の高い司法制度ができている(米国の一部の州であるが)。

日本でも, 虐待親を治療やカウンセリングに結びつけるために, ドイツや米国のように裁判所が関与してほしいとの意見か出ている(「司法関与」という)。

残念だか,日本の裁判所は,お裁き(争訟の裁定)しか頭にない。日本の司法は,実はとても貧困なんだと思う。福祉的な役割は,人間の(魂)の発露なのに,日本では司法の果たすべき福祉的な機能は全く眼中にない。福祉は司法の仕事ではないという印象だ。

日本では、司法を含めて社会制度の改革に向けての取り組みか必要だ。しかし、そのためには何十年もかかるだろう。現に児童虐待防止法か制定され法改正か何度もなされても、虐待の現場は何一つ改善されていない(虐待死亡件数は全く減っていない)。 今を生きる私たちは、声をあけられない子どもたらの目線で、なによりも「子どもたちの生きる力をはぐくんでいくこと」か、生命をつなぐことなのではないか。

暴力でしか自分を表現できないことで苦しみ悩む大人(バタラー)たらも含めて,私たちは,暴力という手段ではなく,もっと生産的な,価値創造的な生き方を学んでいく機会を作っていきたい。心理療法(カウンセリング)もようやく社会的に認知されてきた。

CAP の活動も広がりを見せ、「安心・自信・自由」というスローガンを掲げて人間再生を勧めている。参者までに、「希望の見つけかた」(アレックス・パタコス著、日経 B P 社発行)を紹介しておきたい。



この講座は「ドコモ市民活動助成事業」により実施します

かけがえのない子どもたちを 支えるために、 私たちが出来る事と司法の関わり

一児童虐待が起きる前に、私たちができることは何か~一つ法はどのように関与するのか~

参加料·保育料

日 時 10月10日(±) 午後1:30~3:30

(Zoomは午後1:00より接続テストできます)

会場] 水戸市福祉ボランティア会館 大研修室 (水戸市赤塚1-1ミオス2F 赤塚駅すぐそば 駐車場併設)

「参加資格」どなたでも(会場内先着30名/zoom参加もできます)

講師:岩城正光(いわきまさてる)弁護士



弁護士。1994年に担当した事件で親から性的虐待を受けていた子どもを保護し、その際に協力した児童養護施設の施設長とともに、翌年に「子どもの虐待防止ネットワーク・あいち」(CAPNA)を設立し2013年まで理事長。この事件で破綻した家庭に様々な虐待が潜むことに気づき、「虐待の芽を摘むには市民ネットワークを充実させるしかない」と、「日本虐待防止民間ネットワーク」の理事長も務めた。2013年~2016年まで「子どもや高齢者の悲鳴に耳を傾ける人」と、名古屋市長川村たかし氏より要請を受け、名古屋市副市長を務めた。家庭支援のあり方、子どもの自立支援など、対人援助に向けた司法福祉をライフワークにしている。CAPの活動ではJ-CAPTAの理事としてご尽力いただいている。

~家庭や学校、職場で今起きていること ~子どもと大人の生きづらさと暴力がおこる背景 ~スクールローヤーの役割とは・・・ 「生きづらさのアンケート」 10/1より実施しております ご協力頂けると幸いです→→



主催:認定NPO法人水戸こどもの劇場 CAPいばらき 後援:茨城県教育委員会・水戸市教育委員会

お申し込み方法

- ①下記アドレス宛に、氏名/所属(あれば)/会場参加かzoom参加のご希望を明記の上、メールを送ってください。
- ②メールにて会場参加か、zoomの場合はzoomのURL、ID、パスワードをお知らせします。

メール:gekijo310@citrus.ocn.ne.jp 電話/FAX:029-255-0908



CAPいばらきの ホームページ

2 講演会参加者の感想

本日は、岩城先生および企画運営してくださいました関係者の皆様、本当にありがとうございました。Zoom 参加でしたが、岩城先生の体験を踏まえた貴重なお話が聞けて参加できて良かったです。時間があればもっともっとお話を伺いたい気持ちです。例えば、心の回復に時間が必要な虐待を受けた子どもたちのいる児童養護施設を卒業後の自立支援についての先生のお考え等も伺ってみたいことの一つです。また、児童福祉法に対する国の運用意識が低いとのことから、行政がどうやったら問題解決につながるか現実的なシステムを作る等行政がもっと動くべきとのご意見に共感いたします。まだまだ先のことかも知れませんが、イギリスのように子ども自身が声をあげ、その言葉を信じて聴き入れてくれ安心して駆け込める場所が早くできれば良いと思います。子どもによる子ども組織であっても良いかもしれません。それには子ども自身に子どもの権利があることをできるだけ早い時期に適切に教育すべきと思いますし、先ずは大人の意識を変えなくては進まないと思います。自身も CAP を知ったことで救われた経験を持ちます。CAP が持つ、安心・自信・自由のメッセージを知らせることの重みとエンパワメントすることの意義を改めて深く感じた時間となりました。今後も学び続ける事と、何が自分にできるのかを考え実行するパワーに繋げたいと思います。またこのような学ぶ機会があればぜひ参加したいと思います。本日はお世話になりました。ありがとうございました。

生まれて良かったと子どもが思う環境という説明が、しつけか虐待かでゆれる家庭にとってわかりやすいのではと思いました。司法と福祉の噛み合わなさの理由がとてもよくわかりました。子どもをトータルでケアできる仕組みが進むと良いです。 岩城先生の事は何年も前から存じておりましたが、北海道在住なのでご講演を伺えたのははじめてでした。 zoom 研修を兼ねて頂きありがとうございます。また岩城先生のお話を伺いたいです。例えば、CAP で子どもが開示して虐待を発見できたとして、その後はどうなるのか、多機関連携の事例など。また、名古屋で検証を生かした取り組みをなさった成果や、学校はどう動けば良いのか、どう学校と連携すればうまくいくのか、など。またどうぞよろしくお願いいたします。

岩城さんの、「子どものため」という姿勢が徹底していることに感銘を受けました。子どもには学校に行く義務はない 自治体の子ども条例は権利宣言にすぎない(ことが多い) エンパワメントは説教ではない 弁護するために悪者をつくることは子どもにとって支える言葉にならない などなど、パンチと説得力のあるお言葉がたくさんありました。 その岩城さんが CAP が子どもにとって必要と確信をもって言って下さるのが CAP としてとてもありがたかったです。 貴重な機会をいただき、ありがとうございました。 Zoom によって遠方でも参加できて感謝しております。

実際の案件の内容など、リアルな経験談が聞けたのがとても良かったです 子ども達を守るために CAP が必要な理由が分かった気がする

被害者の現状や日本の政治や司法の関わり方等、他の先進国とくらべて、かなり遅れていることがよくわかりました。特に子どもの虐待は絶対に許されないこと。弱者である子どもを救う為に、連鎖を止めたいです。

法的な観点から、重要性を再認識させて頂けて、貴重な時間でした。 また、法的な視点からの 講演会を希望します。 無料でのオンライン講演会をありがとうございました。 おかげで、遠方 で足を運ばない私のような者も視聴させて貰えました。

自分でもわかっていると思っていたこと(子どもは親を選べない、子どもを育てることは無条件で愛すること、子どもの人権はまだ能力を持たない部分を大人が補う形で保障する義務がある、国家としての責任など)が、岩城氏のお話で確認することができて確信となりました。子どもの人権に関しての認識が遅れている日本で、このことに気づいてもらうための活動の必要性をあらためて感じました。また日本の司法制度が、虐待の悲劇を生み出さないための具体的な取り組みに結び付いていないことに落胆しますが、その必要性を、各国の先進事例を参考に進むべき道を示し声を上げていく動きにも関心を持って協力していきたいと思いました。 また、新たな気づきは、岩城氏が大事だと強調された「加害者を否定しない(悪者を作らない)」こと。声をあげることができない子どもに代わって、子どもたちの生命を守っていくためには、加害者も含めすべての人が生きる意味を自分で気づいていくことなのだと感動を持って納得することができました。 企画していただきありがとうございました。

子どもの人権、貧困、虐待、体罰、不登校などの話があり、どれも興味深く聞かせていただきました。その中で、一番印象に残ったのが、子どもが安心して声をあげれる場所はあるのか?子どもが声をあげた時、大人は助けてくれる人がいるから大丈夫。とどこで誰が助けてくれるのか。をハッキリさせる。 医療機関内、福祉機関内に支援窓口があるが関わる人は専門が多い。専門的で良い部分もある反面、片寄ったみかたをする事がある。 支援には、多職種の人が関わる事でつながりも広くなるのではないか。 そして、支援する人は是非、自分たちの顔を外に見せ、つながりやすくして欲しい。 所。 現在、福島県いわき市で多職種の仲間が集い子育て支援を!というはまどおり大学の活動がまさに、そう。 私もこの活動に参加させてもらっているので、講演内容をいかしていきたいと思いました。 子どもの部活送迎時間と重なり、参加できない。と諦めていましたが…前日に台風で中止になったため 急な申し込みとなり、参加できました。 ありがとうございました。

児童虐待が保護者からのものしか対応できないという事実に気づき、法律の問題点が少しでも早く改正されることを望みます。児童相談所の専門性を向上させるべきという点はだいぶ前から言われているように思いますが、教育の段階で児童福祉司養成のカリキュラムなどができたらよいと考えます。子育てをあらかた終えた世代の女性たちはたくさんのパワーを持っていると思います。そして子どもたちのために、子どもを育てることに困難を感じている親のために何かしたいと思っている人は多いのではないかと。私も何かできたらといろいろアンテナをはっています。今回の講演で法律の面などとても勉強になりました。岩城先生のお人柄もよく伝わりました。初めての zoom で、私のミスで最初20分位音が聞けなかったのが悔やまれます。 岩城先生、スタッフのみなさんありがとうございました!

暴力行為は、悪いことだが、加害者を否定しないというお話が、特になるほどと思えました。 ありがとうございました。

とてもよかったです。難しい内容を、日頃の活動を踏まえて分かりやすく、お話くださった。岩城 さんの子ども観、子どもへの思いと信念、関わり方、素晴らしいと思いました。また、お話、お伺 いしたいです。

岩城先生ありがとうございました。「大人は子どもに奉仕する」という言葉が心に刺さりました。得てして子育でではそういう気持ちで育てると、社会に出てから周りから浮いてしまうのではないかとか、実際に困っているようなのでやっぱり親としてダメだったかなあと反省が多いです。でも、本人はどう感じているかはわかりませんが、子ども時代に受けた愛情や眼差しで、次世代の子どもを愛せる心が育つというお話で、そうかもしれない、まだまだ結果はこれから先の話だなあと思い、少しスッキリしました。 負の連鎖を断っていくのは、地道ですが、人として当たり前のことを続けていけるかどうかなのかなとも思い、講演が終わってからも先生の言葉をいろいろ思い出して考えをめぐらしております。

第三章 子どもへの暴力防止プログラム『CAP』

- 1.子どもへの暴力防止プログラム『CAP』とは
- 2.CAP 大人向け公開ワークショップ参加者の感想
- 3.CAP 児童養護施設プログラム参加者の感想
- 4.自立援助ホームでの CAP プログラム参加者の感想
- 5.CAP プログラムを子どもたちに届けるために

1. 子どもへの暴力防止プログラム「CAP」

CAPってなあに?

子どもは誰でも生まれながらにしてさまざまな素晴らしい力を持っています。 子どもには「安心して」「自信を持って」「自由に生きる」権利があります。 CAPは、自分を大切にする気持ちを育て、子どもが暴力から自分を守るために何が できるかを、子どもだけでなく、保護者も先生もいっしょに考えるプログラムです。 CAP(キャップ)とは、**C**hild **A**ssault **P**revention(子どもへの暴力防止)の頭文字 をとったものです。



子どもはみんな生まれながらにして 素晴らしい力を持っている

CAPでなにを学ぶの?

生きるのになくてはならない特別に大切な3つの権利 「安心」「自信」「自由」 について学びます。



もし、暴力にあって特別に大切な3つの権利をとられそうになったら?

NO 「いや」って言っていいよ。ひとりで言えないときは友だちといっしょに言って みよう GO にげることもできるよ。特別なさけび声を出そう。

TELL 相談しよう。自分が困っていて誰かに言うことは相談だよ。告げ口とはちがう よ。信じてくれる人が出てくれるまであきらめずに話そう。





相談と告げ口はちがうよ

どうして大人も学ぶの?

子どもへの暴力の問題解決には 家庭・学校・地域の協力が必要です。

もしクラスの中で一人でも CAPで習った方法を使って いじめを止めることができたら…

誘拐されそうになったときに 逃げることができたら… 性被害や虐待を回避できたら… 暴力を受けた後すぐにおとなに 相談して力になってもらえたら… 大人にできることをみんなで考えます。

信頼して相談にきてくれた 子どもの話や気持ちを「聴く」ことは 大人にできる心の手当てです。



CAPをあなたの学校で 実施してみませんか?





大人ワークショップ

大人人ワークショップは学校関係だけでなく、さまざまな大人、団体を対象に単独で も実施できます。

●保護者ワークショップ

120分 実施人数:制限はありません 費用:3万円

●教職員ワークショップ

120分 実施人数:制限はありません 費用:子どもワーク実施の場合、無料

*CAPいばらきは非営利団体ですが、講師の質の向上や運営のための多少の経費が必要となります。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

茨城県の子どもたちがひとりでも多くこのプログラムに出会えるようにと2000年より活動を続けております。

ご要望ご質問ございましたら、水戸こどもの劇場までお問い合わせください。



子どもワークショップは大人ワークショップを実施した後、実施することができます。

単独では実施できません。

就学前、小学生、中学生、高校生、障がいのある子、児童養護施設の子どもたちにそれぞれの発達段階にふさわしい寸劇、歌、人形劇、グループ討論などを盛り込んで、子どもを怖がらせることなく、あうかもしれない暴力への具体的な対処法をみんなで考えます。

従来の「~してはいけません」という危険回避の方法とは異なり、「~することができるよ」と身を守るための行動の選択肢を広げ、具体的に練習します。

安心、自信、自由の人権を子どもたちに分かりやすく、繰り返し伝えることで、すべてのこどもが生まれながらに持っている「生きる力」を引き出すプログラムです。

プログラムは3つ。「就学前」「小学生」「中高生」があります。

1. 就学前プログラム

(ワークショップ 20分+トークタイム 30分)× 3日間 費用:3万円

1日目	2日目	3日目
けんりの概念	知らない人対子ども	知っている人対子ども
子ども対子ども(いじめ)	(人形劇)	(いやなさわられかた)
寝る、食べるのまね	1人より2人は強い	からだの名前(歌)
安心・自信・自由のけんり	知らない人とは 話さなくてもいい	くすぐリロールプレイ

2. 小学生プログラム

(ワークショップ 60分+トークタイム 30分)× 1日間 費用:2万円(クラス単位)

子どもの権利

~特別に大切な3つの権利~

安心・自信・自由

○暴力ってなに?

(子ども同士の暴力)

『誘拐』 (知らない人からの暴力)

『性暴力』 (知っている人からの暴力)

○ロールプレイと話し合い

『いじめ』

『大人に相談』 (信頼できる大人に相談) Oトークタイム

ワークショップの復習や 練習、相談の時間



3. 中高生プログラム

(ワークショップ 100分+トークタイム 20分)× 2日間 費用:3万円(クラス単位)

1日目

- ○暴力とは何か
- ○人権について~安心・自信・自由~3つの権利
- ○ロールプレイとグループ討論『痴漢』
- ・護身術(とにかく逃げるために)
- ・同性愛について
- ○ロールプレイとグループ討論『いじめ』
- ・いじめられた人と周りの人の気持ち
- ・いじめられた人と周りの人が出来る事
- ○アクティビティー「気持ちを話す・聴く練習」
- ○トークタイム(復習と相談の時間)

2日目

- ○ロールプレイとグループ討論
 - 『親からの押し付け・体罰』

『男らしさ・女らしさ(ジェンダーの偏見)』

○ロールプレイとグループ討論

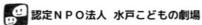
『知っている人からの性暴力』 (or『恋人間の暴力』)

『友達からの圧力』

- ○アクティビティー 「動いて選択(賛成反対)」
- ・男の役割、女の役割が明確な社会について
- ・親から子への体罰について
- ○トークタイム(復習と相談の時間)

2.CAP 大人向け公開ワークの開催と参加者の感想





お知らせ

★ HOME / お知らせ / 【CAPワークショップ公開講座開催しました】

曲 2021年5月21日 / 最終更新日時: 2021年7月16日 🖋 mito-kodomo

お知らせ

【CAPワークショップ公開講座開催しました】

私たち水戸こどもの劇場内で活動している**CAPいばらき**では、いじめや虐待など子どもへのあらゆる暴力防止のため、地域の小中学校や児童養護施設等で子どもたちやまわりの大人たちにも人権の大切さをつたえる活動「CAP(子どもへの暴力防止プログラム)」をしています。

そのCAPのおとなワークショップ公開講座を2021年5月20日に実施しました。

子どもへの暴力防止のためにまわりの大人には何ができるかを、寸劇を見て話し合うことができました。

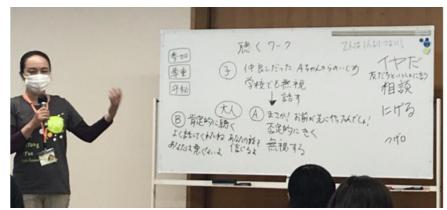
- ・子供から相談をうける時の姿勢を振り返りたいと思います。「いやだ」を相手に伝える重要性を理解しました。子どもの権利、安心・自信・自由は子供に理解しやすいと思いました。
- ・いやだと言えるということを伝えることで、言っていいんだということが分かった。また、言われた側は、相手の権利をうばっているということに気が付いて、行為や言葉・発言をやめることにつながるように理解することも大事と思った。こういうワークショップに参加して、改めて知らないことがあると思った。無料で開いていただきありがとうございました。



・相談するとチクるの違いが判って良かったです。逃げてもいいし、嫌だと言っていいというのは困っている子にとっては救われると思いました。話を聞いて力になってくれる人が出てくるまで、話し続ける

のは大変だと思うので、自分も話をきいて力になってあげたい。

- ・自分ではわかってたと思ったんですが、今日の CAP を聞いてちがう考えがある事に気づきました。子 どもの立場はとても弱い者なので、大人が助けてあげる事の大切な所も知りました。人の安心・自信・自由、とても大事なことですね。子ども達の話を聞く大切さを知りました。
- •誘拐の劇を見て、相手に対してのゲキタイ方法をいろいろあるのが学べました。性暴力の劇では、女子が多いのはわかっていたが男子にもあるのに気づかされました。理解する人に相談することの大切さを知りました。
- 3人の方のわかりやすい劇が、とても上手でした。子どもの権利、とても重要な事がわかりました。ひとりで悩みをかかえない事。相談する(できる人~)、相談された時は、相手の人の話を聞いてあげる。 信じてあげる事が大切なのもよくわかりました。



- 今回の受講を通して、私も今一度、子供たちの立場になり考えさせられました。大人になるにつれて"イヤ""NO"と言えなくなってくるので、子供たちに"イヤ""NO"ということの大切さ、身を守るために必要なことがあるということが分かったので、今度は、私たちが子ども達に伝える番だと感じました。劇もとても簡潔的でわかりやすく、とても考えさせられました。本日はありがとうございました。
- 子どもの年齢に合った伝え方があるのだという事を改めて感じました。ワークショップ型の講座とてもわかりやすかったです。
- ・参加する前は、それほど暴力やいじめに関心は持っていなかったのですが、とても身近な社会課題であるということを気づかさせてくれました。自分自身、子どもと接することをあまり得意ではないと思っているので、少しでも得意になれるように、そして周りの人と協力して、子どもを守っていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・子どもの暴力に対して、どのように大人が対処していくべきか、劇やロールプレイを通じて理解することができました。大人は、子どもに対して肯定的な姿勢を見せることが大切だと実感しました。貴重なお話ありがとうございました。
- •「被害者の立場でどう防ぐか」をよく学べました。知らない情報として学ぶというより、立場を変えて 再認識してとらえなおせた WS でした。もっと難しい内容かもしれませんが、加害者に対するケアや 対策についても勉強したいと思いました。
- 肯定的に話を聴くことの大切さを改めて感じることができました。他にもいろいろあります。。。ありが とうございました。
- いじめられる子の役で大人に聞いてもらえなかった後に、次の設定で「聞いてくれる大人」の人が「そ

うかつらかったね」と認めてくれた時、ワークショップでの設定だと分かっていても、その言葉にホッとして気持ちがフワッと軽くなりました。これが、子どもの実際の立場だったら、自分の変化に気づいてくれて、相談し、聞いてくれる大人がいるという安心感は量りしれないものであると気づきました。話を聴いてもらえる話をしてくれる大人側の環境作りに努めたいと思いました。ありがとうございました。

・息子が!!いじめをうけて、不登校を経て転校して、今は落ち着いて学校生活を送っています。就学前から被害者体質のため、先月末から児童心療内科を受診して発達障害のテストを受けています。なぜいじめるのか?暴力をするのか?なぜターゲットになるのか?どうすればいじめを防げるのか?自分の息子のように悲しい思いをする子が出てほしくないです。今後、息子に同じようなことが起こらないように、自分は何ができるのか?子供たちが楽しく学校生活を送るために、何ができるのか?勉強を続けていきたいと思います。本日は有難うございました。

4. CAP児童養護施設プログラムの開催と参加者の感想

CAP児童養護施設職員向けワークショップ

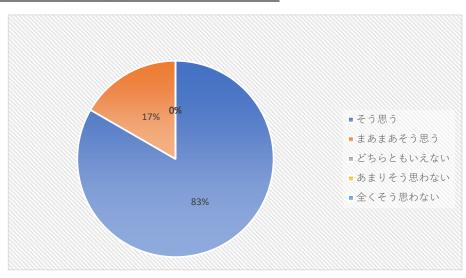
今年度で5年目のCAPプログラム実施となった児童養護施設です。

同じ地域に暮らす仲間として、これからもホームのこどもたちや、こどもを支える職員の方々に CAP(こどもへの暴力防止)を通じて、少しでもお役に立てればと思っております。

今年は11月に2回実施で24名の職員の方にお忙しい中、ご参加頂きました。

以下に職員向けワークショップの実施後のアンケートをご報告いたします。ワーク実施後のお忙しい中、参加人数の約半数の方からアンケートを頂くことができました。

(1)ワークショップ全体の印象はよかったですか?



役に立つと思われたのはどの部分でしたか?

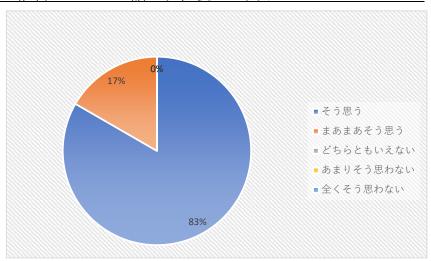
- ・デートレイプ
- ・うなずきながらよく聞くことの大切さ
- ・私たち自身で何が原因だったか、何をすればよかったのか考えられたこと
- ・他の人の意見を知る機会になったこと
- ・子どもと職員役で体験できたこと
- ・自分の人権だけではなく、相手の人権も守るということを 改めて考えさせられた。
- ・いじめの部分、周りの人と一緒に相手に話をすること
- ・いじめ⇒転校しても良い という考え方は無かったので、覚えておこうと思う
- ・いじめられて良い人は世の中に一人もいない、という言葉、とても素敵な表現だと感じました。
- ・自分の気持ちを伝える、相手の気持ちを真剣に聞く、ということが大切、と意識して、伝える。
- ・仲間はずれにされた時の対応のロールプレイ、 性被害のロールプレイなど、 模擬体験ができる場所があって良かった。
- ・暴力について ストーカーなども暴力のくくりに入ることを知った。
- ・全ての内容が毎回勉強になります。
- ・断ること(断り方)の大切さなど、大人や友達、信頼できる人に相談すること
- ・いじめ、デートDVの対応の仕方
- ・安心、自信、自由 断り方
- ・今回お聞きした内容すべて

- 嫌なことは嫌だと言えるところ
- ・似たような事柄があった場合、子どもたちが考える上でいろんなことを 知っているということはプラスになると思うので、いいきっかけになると思いました。

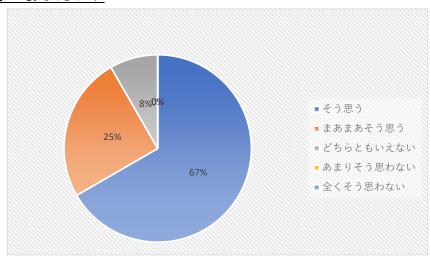
役に立たないと思われたのはどの部分でしたか?

- ・難しいのは知的に低い子や認知の違いで、性行為は合意ないとだめなこと、 しなくていいと思わない子もいるかもしれないので、その上で伝えるのが難しい。
- ・特になし
- ・そう思ったようにうまくいくかな…と思ってしまいました。

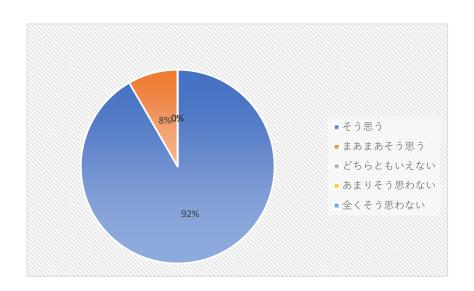
2)こどもの権利についての話は、抵抗なく受け止められましたか?



3)こどもがCAPに参加することで、いじめなどの暴力への対応がわかるように なると思いましたか?



4)CAPプログラムを施設や学校で実施したり、他の人にも受けてほしいと思いますか?



<u>5)子どもワークショップを実施するにあたって、疑問、質問などがありましたら、お聞</u>かせください

- ・ホーム以外のワークショップの場であった事例について知りたいです。 友達にいえない子はどうしたらよいか 断れない、流されてしまう子へのアプローチ
- ・子どもたちが恥ずかしがったり、周りの反応を気にして発言できなかったり、 質問ができなくならないとよいな、と感じます。自分の考えや気持ちを発言して、 認められる経験をしてほしいです
- ・今回実年齢のクラスでの参加ということで、知的に低いお子さんの反応に不安が ありますが、良い機会だとも思いました。
- ・友だちからの圧力についても興味が出たので、来年も楽しみができました。

6)その他、ご意見ご要望、感想等をお聞かせください

- ・いつもありがとうございます
- ・これまで性的暴力について詳しく触れる機会がなかったため、 今回触れることができて良かったです。
- ・ゆかさんの友人役ができて、発言する勇気が大切だなと学べ、 良い機会になりました。ありがとうございました。
- ・わかっていることも、改めてワークを受けると再確認できる部分が多く、 とても勉強になりました。
- ・相手の人権を尊重することの大切さ、改めて大事だなと思いました。 人権を守るというと、自分のだけ守ると考えてしまうけど、相手の人権も守る、 ウィンウィンの言動があることを再確認できました。ありがとうございました。
- ・劇を交えて、分かりやすく説明していただき良かったです。 基本的なことだけど、改めて考えるとパッとでてこないこともあったりしたので、 今日参加出来てまた考え直すことができました。
- 何かあった時は、思い出し今後に生かしたいと思いました。

・伝え続けていくことが大切なのだと感じました。

・年齢によって得ることが変わっていく、ということと、日常生活で意識しなくなって しまうことがあるように感じた。参加させていただいて、良かったです。 ありがとうございました。

- ・お忙しい中ありがとうございました。
- ・毎年受けていても、忘れてしまっているのだと気が付きました。現在の社会情勢に 合わせた内容を取り入れてくださり、感謝しかありません。毎回新たな発見があるようで、 とても楽しい研修でした。
- ・ロールプレイの中で、悪い例、良い例を見せてもらい、分かりやすかった。
- ・最後の職員と子供役でのロールプレイは子どもの気持ちになることもでき、 日頃子どもの話を聞いてあげることは大事だと改めて思いました。
- ・以前は「親からの押し付け、体罰」、「男らしさ、女らしさ」、「性暴力ーデートDV」について聞いていなかったので、違うシチュエーションも考えられて良かったです。 特にデートDVについては、なかなか職員から子どもに伝えるのは難しいので、 こういった題材はとてもありがたいです。すべての事が最後は「権利」に繋がっていて、 分かりやすかったです。
- ・CAPを受け、知らなかった、分からなかった、知っていれば良かったの、がなくなればいいなと思いました。考えるきっかけにもなり良かったです。ありがとうございました。

CAP就学前向けワークショップ

① 就学前プログラム(ワークショップ 20 分+トークタイム 30 分) X 3 日間

1日目

けんりの概念 子ども対子ども(いじめ)

寝る、食べるのまね 安心・自信・自由のけんり ストレッチ 子ども対子どもロールプレイ 「いや」と言う練習 2 日目

知らない人対子ども (人形劇)

1人より2人は強い 知らない人とは話さなくてもいい 安全な距離と特別な叫び声 逃げることと大人に話すこと 護身術の練習 3日目

知っている人対子ども(いやなさわられかた)

からだの名前(歌) くすぐりロールプレイ キスロールプレイ 大人に話すロールプレイ いや!逃げる、相談の復習

就学前ワークの一日目は、以前にも参加してくれた子も何人かいて、CAPのことを覚えていた子もいましたが、少し緊張している子もいました。ワークが進むにつれ、段々と打ち解けて活発に参加していました。

権利の安心の話で、「どんな時が安心?」という質問をしたところ、「鼻に指を入れている時」と答えてくれました。その後も鼻の話がたくさん出て楽しそうに話してくれました。先生にお聞きしたところ、眠る時のくせとの事でした。その様子が目に浮かび、私たちも大きな気づきとなりました。

二日目は誘拐を人形劇でワークを実施しました。人形が動いたり、話す事に興味津々で、一日目は「いや」をワークの後でたくさん練習しましたが、二日目はオー!と叫んで逃げる練習が楽しくできました。

三日目は就学前のこどもが逢いやすい性暴力として、嫌な触り方やキスの劇を見て、「いやと言ってもいいこと」「逃げることもできること」「大人に相談する」をみんなで確かめました。

就学前のこどもに感想を聴くのは、毎年なかなか難しく、先生もこどもたちを引率して部屋に戻らないといけないので、今回フリーで描ける紙とペンを持参して、ワークの直後に描いてもらったのを以下に紹介します。いつもはホワイトボードにいっぱい描いてくれますが、今回は紙に描いてもらいました。







CAP小学生向けワークショップ

② 小学生プログラム(ワークショップ 30 分+トークタイム 30 分)X(児童養護施設では 2 日間)

1日目

子どもの権利~特別に大切な3つの権利

安心・自信・自由 ○ロールプレイと話し合い

『いじめ』(子ども同士の暴力)

2日目

○ロールプレイと話し合い

『誘拐』(知らない人からの暴力)

『性暴力』(知っている人からの暴力)

『大人に相談』(信頼できる大人に相談)

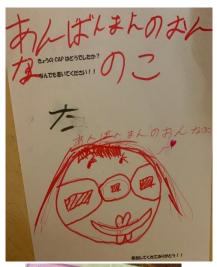
今年は他の地域の小学校でのワークでもコロナ禍でゲームやSNSでのトラブルが多く、子どもたちがトラブルの相談に来てくれることが多かったです。仕返しされるんじゃないかとか、怖い思いをしているようでした。しかし、児童養護施設では普段から職員の方々によく話を聴いてもらっている様に感じ、少し安心できました。

女子グループは、部屋が暖かく眠気もあったのか、発言が少なかったり、反応が掴みにくかったのですが、いじめの劇が始まるとよく参加してくれて、全員が何度も劇で友人役で出てくれました。

トークタイムも女子全員が残って、劇を何度もやりました。段々エスカレートしてしまう場面もありましたが、自分の見せ場を作ってひとりでやりたい子やセリフを工夫する子、、、生き生きと演じてくれました。

小学生にもフリーで描ける紙とCAPの冊子を渡して、自由に描いてもらいました。









CAP中高生向けワークショップ

③ 中高生プログラム(ワークショップ 100 分+トークタイム 20 分) X 2 日間

1日目

- ○暴力とは何か
- ○人権について~安心・自信・自由~3つの権利
- ○ロールプレイとグループ討論**『痴漢』**
 - ・護身術(とにかく逃げるために)
 - ・同性愛について
- ○ロールプレイとグループ討論『いじめ』
 - ・いじめられた人と周りの人の気持ち
 - ・いじめられた人と周りの人が出来る事
- ○アクティビティー「気持ちを話す・聴く練習」
- ○トークタイム(復習と相談の時間)

2日目

○ロールプレイとグループ討論

『親からの押し付け、体罰』 『男らしさ、女らしさ(ジェンダーの偏見)』

○ロールプレイとグループ討論

『知っている人からの性暴力』(or 『恋人間の暴力』) 『友だちからの圧力』

- ○アクティビティー「動いて選択(賛成反対)」
 - ・男の役割、女の役割が明確な社会について
 - ・親から子への体罰について
- ○トークタイム(復習と相談の時間)

今年度の中高生は、特別支援学校や学級に通う知的や情緒障がいの子どもたちが一緒に参加となりました。打合せで関係性がどうなのか心配しましたが、参加してくれた子どもたちは冗談を言いながら協力して参加していました。

中2から通信高校4年生まで10名が対象で、時間も19時から2時間の土日でしたので、バイトから帰って食事と入浴の後に参加してくれた子も多いと聞きました。疲れと眠気が出る時間帯ですが、いつもながら真剣に考えて、発言やボードにグループ討論でまとめた意見を書いてくれました。

4.自立援助ホームでの CAP プログラム参加者の感想

中高生向け CAP プログラム参加者の感想

- ・改めて自分で考えて意見を聞いてもらうことで、暴力についての考え方、またその対処法 についてもしっかりと考えをまとめることができた。ほかの人の意見も聞いて、自分には無 い発想も発見できて興味がわいた。
- ・人の気持ちを尊重することの大切さを改めて学べました。親や恋人等の近い関係でも、お 互いに思いやって信頼し合えるように、相手のことを考えて行動することはとても大事だ と思いました。今回も他の人の意見から新しい考え方を見つけられて面白かったです。 自分も他の人を思いやってお互いによい関係を築いていけるようになりたいと思います。
- ・暴力について深く考えることができて良い機会でした。親から子への暴力、友人間での暴力、恋人間での暴力は誰にとってもプラスになることではない。大切な人を傷つけてしまったりした時にどうすれば良いのか考える事ができた。友達の考えも参考にして人と関わっていきたいと思いました。

自分がしたいようにするのではなく、相手の気持ちをしっかり尊重することが大切だと改めて思った。今日の事を自分の頭の中にしまってそれを活用したい。また、それを自分の家族や友達、恋人などに伝えてお互いを尊重して。信頼できる関係を築いていけたらいいなと思いました。今日はありがとうございました。

・普段、学ぶことがない話だったのでとても貴重な体験ができました。今日は本当にありが とうございました。

施設職員向け CAP プログラムの参加者の感想

・反暴力に対して「人権」からの見方は新しく、興味の湧くものでした。また、安心、自信、 自由のスローガンは取っ付き易く、小さい子どもでも覚えやすいですね。

暴力に対してイヤ!と言うことは勇気が要りますが、まず方法が分からないという子どもは沢山いると思います。方法を見聞きすることで一歩踏み出す勇気につながるでしょう。 実演して頂いたようなロールプレイで実際にやってみたり、その様子を見たりすることで、 場面を想像できて理解も深まります。

私自身、小さい時は、何か嫌なことをされた時に「やめて!」と言えないことが多くありました。学校で今回のような事を教わった記憶がないので、もっと小さい時に知っていればなと思います。

プログラムを通じて教えて頂いたことは、参加した子どもたちも、為になった、大切な学びだったと感心していましたし、私自身も多くを学ばせて頂きました。最近はいじめや DV が増えていると聞きます。より多くの子どもや大人が学び、考えなければならない時代がきていると考えます。

昨今の情勢で活動は大変だとは思いますが、今回、このような素晴らしいプログラムを開催 いただき、本当にありがとうございます。

・互いを傷つけないためには、思っていることを素直に伝えること、人に相談したり助けを 求めること、互いに尊重し合い理解し合うことなど、大切なことを教えていただきました。 また。ジェンダーについても、人の人権を考える上で大事なテーマですね。本日も子どもた ちは真剣にプログラム、ワークの取り組めていたと思います。

普段はあまり自分の意見を言わない子も、率先して話をしていたので少し感動していました。それも、今回のプログラムで学んだこと、言っても良いという雰囲気を作っていただいたからだと思います。

個人的には、最後の自分の感情を大切にする、否定しないという所は、特に考えさせられるものがあり、自分のこれまでの過去や自分自身について振り返るきっかけになりました。私は、あまり人に頼らず、自分の中で解決してしまいがちで、感情も押し隠してしまいがちなので、今後、友人や親に色々と話してみようと思います。

また、本日と先日のプログラムで行ったことについて、子どもたちと話をして感じたこと、 考えたことをシェアしたいと思います。

大変お忙しい中、貴重な体験をできた事、本当に感謝しています。

5.CAP プログラムを子どもたちに届けるために



私たちの活動は、会員の会費や助成金、行政からの委託などの事業収入、ボランティアスタッフの奉仕によって実施されています。

経済格差が広がる中で、参加費が必要な事業には、参加したくても出来ない子どもたちも増えており、全ての子どもたちに向けた活動を維持、発展させていくためには、 資金が必要です。

全ての子どもたちが、尊重され、この地に生まれてよかったと思える環境を私たち大 人が創ることが、豊かな未来を育てます。

未来を育てる活動をご支援ください。

みなさまのご支援を心からお待ちしております。

水戸子どもの劇場は、寄付控除の対象となる認定NPO法人です。

ご寄付される皆様は、確定申告のおり、当法人が発行する領収書を添付し、「寄付控除」の欄に金額をご記入いただきますと、税金の還付を受けることが出来ます。

寄付方法・ご支援方法

銀行振込・郵便振替、または直接水戸こどもの劇場事務所までお持ちいただくことも 可能です。

金額は3,000円から、賛助会員*は1口5,000円からです。

(*賛助会員は毎年定期的に寄付していただける方・団体です)

寄付お申し込みフォームに入力し、送信ボタンを押してください。その後に銀行振 込・郵便振替をお願いします。

直接お越しいただける場合は、開局時間内(平日10~17時)にお越しください。事前にお電話いただけますと助かります。

常陽銀行 見和支店 普通 1261264 特定非営利活動法人 水戸こどもの劇場

郵便振替

00300-8-1833

特定非営利活動法人 水戸こどもの劇場

水戸こどもの劇場のホームページはこちらです。

いろんな活動の様子を日々アップして紹介してますので、ぜひご覧ください。

https://mito-kodomo.securesite.jp/wp/

認定NPO法人 水戸こどもの劇場

ホーム 水戸こどもの劇場とは 文化創造体験 子育て支援 活動交流 予定表 入会・寄付 お問い合わせ お申込み・予約



